

第Ⅰ部 大学院人文社会系研究科・文学部の概況

1. 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

(1) 沿革

A 学部の沿革（年譜）

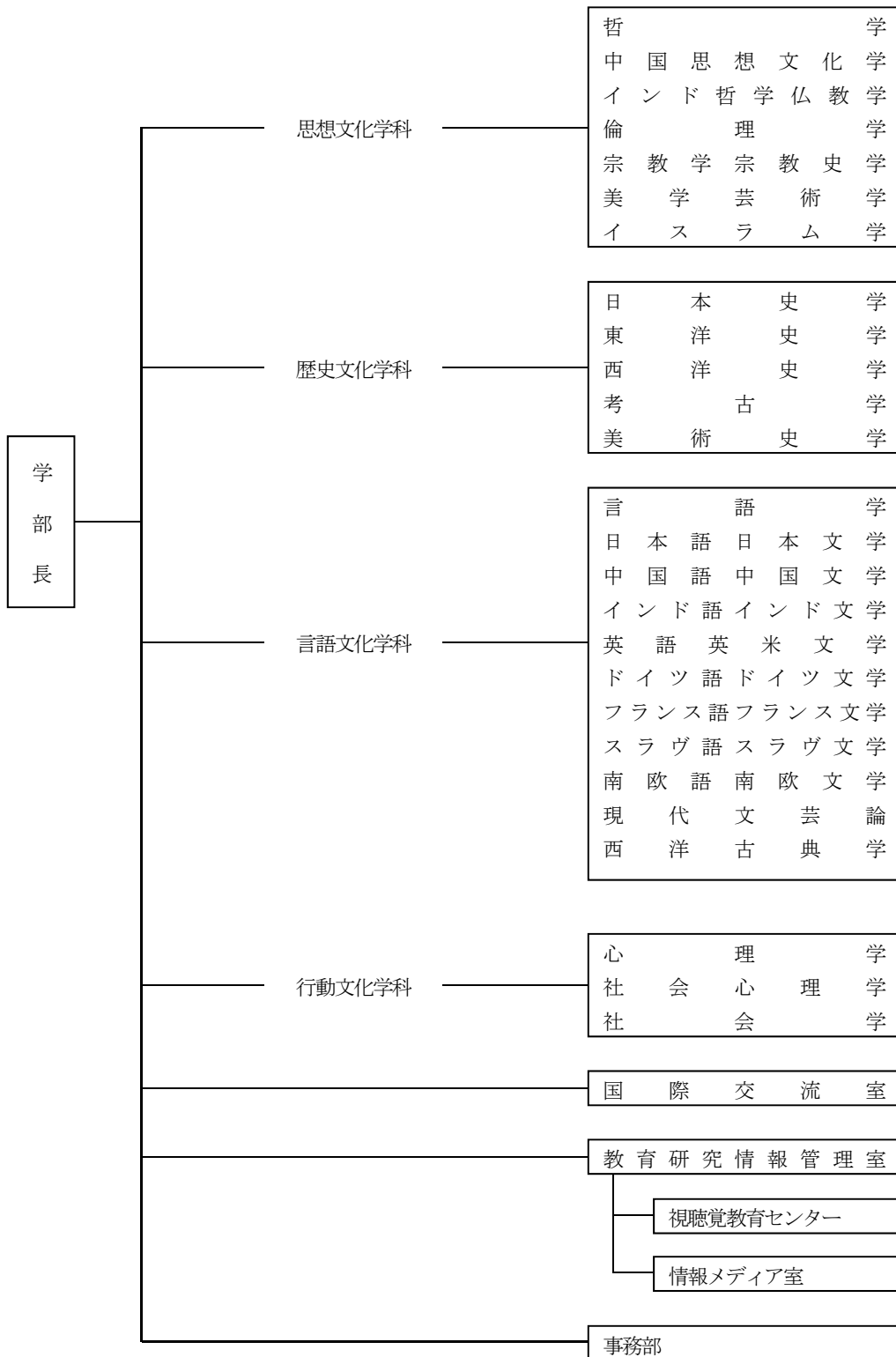
東京大学	文学部	明治10(1877), 4・東京大学設立	(2学科) 第一 史学, 哲学及政治学科 第二 和漢文学科
		明治12(1879), 9 《明治13(1880), 7・第1回卒業生8名》	「第一 史学, 哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881), 9	(3学科) 第一 哲学科 第二 政治学及理財学科 第三 和漢文学科
		明治18(1885), 12	(3学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 (政治学, 理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる)
帝国大学	文科大学	明治19(1886), 3・帝国大学令	(4学科) 『第四 博言学科』を増設
		明治20(1887), 9	(7学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 第四 史学科 第五 博言学科 第六 英文学科 第七 独逸文学科
		明治22(1889), 6	(8学科) 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889), 12	(9学科) 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895), 4	史料編纂掛設置
		明治33(1900), 6 明治37(1904), 9	「博言学科」を『言語学科』とする (3学科) 哲学科 史学科 文学科
東京帝国大学	文学部	明治43(1910), 9	(3学科 19専修学科) 第一 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 美学, 教育学, 社会学 第二 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学 第三 文学科—国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 言語学
		大正6(1917), 9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
		大正8(1919), 4・帝国大学令改定(大正7(1918), 12・大学令制定にともない)	(19学科)
		大正8(1919), 9	国文学, 国史学, 支那哲学, 支那文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学宗教史, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		《大正10(1921), 4・学年暦変更「9月～7月」を『4月～3月』とする》	史料編纂掛を史料編纂所と改称する
		昭和4(1929), 7	(17学科) 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする
		昭和7(1932), 4 《昭和18(1943), 12・学徒出陣》	(3学科 21専修科) 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学, 美術史学 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 文学科—言語学, 国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		昭和21(1946), 3 《昭和21(1946), 4・女子学生9名入学》	能率研究室 航空研究所より移管
		昭和23(1948), 4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする
		昭和24(1949), 4	(19学科) 国文学, 国史学, 中国哲学, 中国文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学梵文学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 考古学
東京大学	文学部	昭和25(1950), 4	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学美術史」を『美学美術史』とする 史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる
		昭和26(1951), 4 《昭和26(1951), 4・教養学部より第1回新制学生進学》	(18学科) 「教育学科」を廃止する (昭和24年教育学部設立にともなう措置)

東京大学 文学部	昭和38(1963), 4	(4類 21専修課程) 第一類(文 化 学)－哲学, 中国哲学, 印度哲学, 印度文学, 倫理学, 宗教学, 宗教史学, 美学, 美術史学 第二類(史 学)－国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 第三類(語学文学)－言語学, 国語国文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フラン ス語フランス文学, 西洋近代語近代文学, 西洋古典学 第四類(心理学, 社会学)－心理学, 社会学
	昭和39(1964), 4	語学ラボラトリー設置
	昭和41(1966), 4	文化交流研究施設設置
	昭和42(1967), 4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
	昭和43(1968), 4	「第一類 美術史学」を『第二類 美術史学』とする
	昭和47(1972), 4	(4類 22専修課程) 『第三類 ロシア語ロシア文学』を増設
	昭和48(1973), 4	北海文化研究常呂実習施設設置
	昭和49(1974), 4	(4類 23専修課程) 『第四類 社会心理学』を増設
	昭和50(1975), 4	(4類 24専修課程) 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
	昭和54(1979), 4	(4類 25専修課程) 『第三類 イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学, 社会学)」を『第四類(行動学)』とする
	昭和57(1982), 4	(4類 26専修課程) 『第一類 イスラム学』を増設
	昭和59(1984), 9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
	昭和60(1985), 4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
	昭和63(1988), 4	(4類 27専修課程) 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類 印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
	平成4(1992), 4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
	平成5(1993), 4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
	平成6(1994), 4	(4類 26専修課程) 第一類「中国哲学」, 「印度哲学」を『第一類 中国思想文化学』, 『第一類 インド哲学仏教学』に, 第二類「国史学」を『第二類 日本史学』に, 第三類「印度語印度文学」, 「ロシア語ロシア文学」, 「イタリア語 イタリア文学」を『第三類 インド語インド文学』, 『第三類 スラヴ語スラヴ文学』, 『第三類 南欧語南欧文学』とし, 第三類「国語学」, 「国文学」を『第三類 日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
	平成7(1995), 4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史 学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
	平成19(2007), 4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称 (現在4学科 26専修課程) 思想文化学科－哲学, 中国思想文化学, インド哲学仏教学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学, イスラム学 歴史文化学科－日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 美術史学 言語文化学科－言語学, 日本語日本文学, 中国語中国文学, インド語インド文学, 英語英米文学, ドイツ語 ドイツ文学, フランス語フランス文学, スラヴ語スラヴ文学, 南欧語南欧文学, 現代文芸論, 西洋古典学 行動文化学科－心理学, 社会心理学, 社会学

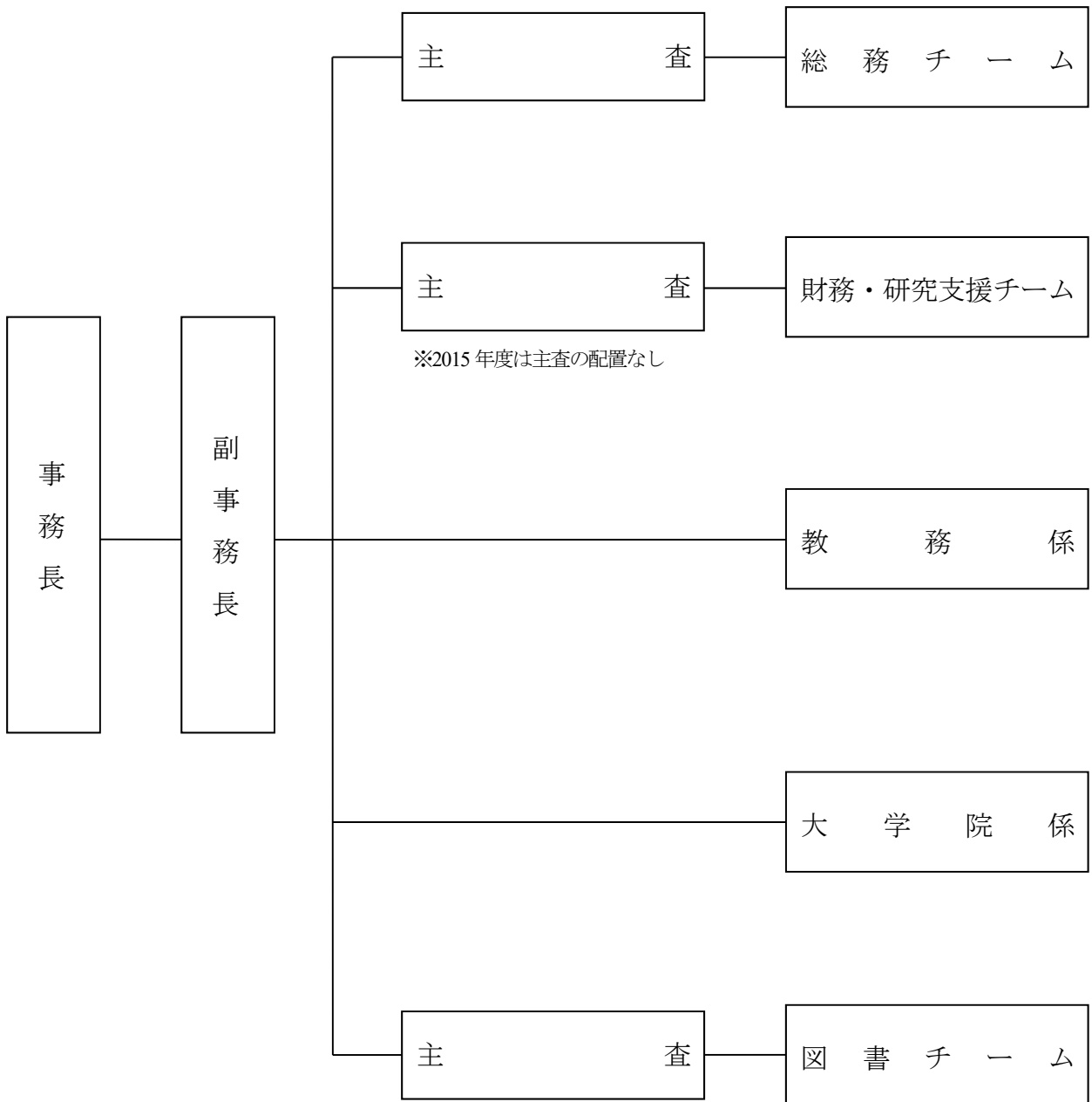
B 人文社会系研究科の沿革（年譜）

人文科学 研究科	昭和28(1953), 4 東京大学大学院（新制）設立	人文科学研究科（24専門課程） 国語国文学，中国語中国文学，西洋古典学，英語英文学，独語独文学， 仏語仏文学，比較文学比較文化，言語学，国史学，東洋史学，西洋史学， 考古学，哲学，中国哲学，印度哲学，倫理学，宗教学宗教学史学， 美学美術史学，心理学，教育学，教育心理学，学校教育学，教育行政学， 体育学 社会科学部研究科（10専門課程） 公法，民刑事法，基礎法学，政治，国際関係論，理論経済学経済史学， 応用経済学，商業学，農業経済学，社会学
	昭和38(1963), 4 研究科の改編にともない， 教育学研究科，法学政治学 研究科，経済学研究科，社 会学研究科設立	人文科学研究科（19専門課程） 国語国文学，中国語中国文学，西洋古典学，英語英文学，独語独文学， 仏語仏文学，比較文学比較文化，言語学，国史学，東洋史学，西洋史学， 考古学，哲学，中国哲学，印度哲学，倫理学，宗教学宗教学史学， 美学美術史学，心理学 社会科学部研究科（2専門課程） 国際関係論，社会学
	昭和39(1964), 4	人文科学研究科（20専門課程） 美学美術史学専門課程を改組し，『美学専門課程』，『美術史学専門課程』設置
	昭和40(1965), 4	社会学研究科（3専門課程） 『文化人類学専門課程』設置
	昭和42(1967), 4	人文科学研究科（20専門課程） 「美学専門課程」を『美学芸術学専門課程』に改称
	昭和49(1974), 4	人文科学研究科（21専門課程） 『露語露文学専門課程』設置
	昭和51(1976), 4	社会学研究科（4専門課程） 『社会心理学専門課程』設置
	昭和58(1983), 4	人文科学研究科（20専門課程） 比較文学比較文化専門課程を総合文化研究科に振替 社会学研究科（3専門課程） 国際関係論専門課程を総合文化研究科に振替
	昭和60(1985), 4	人文科学研究科（20専門課程） 印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称
	昭和62(1987), 4	専門課程を専攻に変更
昭和63(1988), 4	社会学研究科（2専攻） 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替	
社会科学 研究科	平成7(1995), 4 人文科学研究科と社会学研 究科の合流による再編にと もない，人文科学研究科の 『人文社会系研究科』への 名称変更，社会学研究科の 廃止	人文社会系研究科（5専攻） 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 『多分野交流プロジェクト研究』の設置
	平成12(2000), 4	人文社会系研究科（6専攻） 『文化資源学研究専攻』設置
	平成14(2002), 4	人文社会系研究科（7専攻） 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
	平成16(2004), 4	文化交流研究施設 東洋諸民族言語文化部門を『基礎文化研究専攻・言語応用 コース・言語動態学専門分野』に改組 社会文化研究専攻・社会情報学コース・社会情報学専門分野を情報学環に振替
	平成17(2005), 4	文化交流研究施設を改組し，『次世代人文学開発センター』を設置
	平成19(2007), 4	欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置
	平成20(2008), 4	韓国朝鮮文化研究専攻を『韓国朝鮮歴史文化コース・韓国朝鮮歴史文化専門分野 及び韓国朝鮮言語社会コース・韓国朝鮮言語社会専門分野』に改組
	平成21(2009), 4	『基礎文化研究専攻・言語基礎コース・言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻 ・言語応用コース・言語動態学専門分野』を統合し，『基礎文化研究専攻・言語 基礎応用コース・言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し，『アジア文化研究専攻・アジア文化コース・中国 語中国文学専門分野，東アジア思想文化専門分野，インド文学・インド哲学・仏 教学専門分野，イスラム学専門分野，アジア史専門分野』を設置
	平成23(2011), 4	『死生学・応用倫理センター』の設置
	平成27(2015), 4	『文化資源学研究専攻・形態資料学コース・形態資料学専門分野』と『文化資源 学研究専攻・文字資料学コース・文書学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文 字資料学・文献学専門分野』を統合し，『文化資源学研究専攻・文化資源学コース ・文化資源学専門分野』に改組
人文社会系 研究科	(現在 7専攻) 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース（言語学） 形象文化コース（考古学，美術史学） 思想文化コース（哲学，倫理学，宗教学宗教学史学，美学芸術学） 心理学コース（心理学） 日本文化研究専攻 日本語日本文学コース（日本語日本文学） 日本史学コース（日本史学） アジア文化研究専攻 アジア文化コース（中国語中国文学，東アジア思想文化，インド文学・イン ド哲学・仏教学，イスラム学，アジア史） 欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース（西洋古典学） ロマンス語圏言語文化コース（フランス語フランス文学，南欧語南欧文学） 広域英語圏言語文化コース（英語英米文学） ゲルマン語圏言語文化コース（ドイツ語ドイツ文学） スラヴ語圏言語文化コース（スラヴ語スラヴ文学） 現代文芸論コース（現代文芸論） 欧米歴史地理文化コース（西洋史学） 社会文化研究専攻 社会学コース（社会学） 社会心理学コース（社会心理学） 文化資源学研究専攻 文化資源学コース（文化資源学） 文化経営学コース（文化経営学） 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史文化コース（韓国朝鮮歴史文化） 韓国朝鮮言語社会コース（韓国朝鮮言語社会） 多分野交流プロジェクト研究 次世代人文学開発センター 死生学・応用倫理センター	

(3) 文学部の機構



(4) 事務組織



(5) 施設・設備

(平成 28(2016)年度現在)

法文1号館	建築年	昭和4(1929)・40(1965)	構造	R3-1
		昭和51(1976)	構造	R+1
	建物面積	3,964 m ²	総建物面積	10,723 m ²
法文2号館	建築年	昭和4(1929)・42(1967)	構造	R4-1
		昭和51(1976)	構造	R+1
		昭和56(1981)	構造	S+1
	建物面積	12,857 m ²	総建物面積	15,390 m ²
文学部3号館	建築年	昭和62(1987)	構造	R8-2
	建物面積	3,547 m ²	総建物面積	3,547 m ²
アネックス	建築年	平成9(1997)	構造	S2
	建物面積	580 m ²	総建物面積	580 m ²
総合研究棟	建築年	平成7(1995)	構造	R7
	建物面積	657 m ²	総建物面積	3,942 m ²
赤門総合研究棟	建築年	昭和40(1965)	構造	R8-1
	建物面積	2,946 m ²	総建物面積	14,625 m ²

北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 m ²				
	借用	7,911 m ²				
建 物	所有	車 庫	建築年	昭和41(1966)		
				構造	B1	
					総建物面積	38 m ²
			資料保存センター	建築年	昭和43(1968)	
					構造	W2
					総建物面積	175 m ²
		新学生宿舎	建築年	平成15(2003)		
				構造	R2	
				総建物面積	338 m ²	
借用		資 料 館	建築年	昭和42(1967)		
				構造	R3	
				総建物面積	343 m ²	
		研 究 棟	建築年	平成10(1998)		
		(ところ埋蔵文化財センター)		構造	R1	
				総建物面積	868 m ²	

2. 教育とその成果

(1) 入学と進学

A 学部への進学・学士入学等

平成26(2014)年文学部学生数

平成26(2014)年4月1日現在

	2008	2009	2010	2011		2012		2013				2014				計	
	進学	進学	進学	進学	再入	進学	学士	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学		
哲学	1		1	2		10 (1)	1	20 (1)					12 (2)			2	49 (4)
中思文			1			2											3
印 哲					1		2	2	1				2	1 (1)			9 (1)
倫 理			1	4		4		14 (2)					9				32 (2)
宗 教			1	1		3 (1)		15 (5)	1				13 (4)	1 (1)			35 (11)
美 学			1	2		3		16 (11)				1	16 (9)		1		40 (21)
イ 学			1			3 (1)		3					1				8 (1)
計	1		6	9	1	25 (3)	3	70 (19)	2			1 (1)	53 (15)	2 (2)	1	2	176 (40)
日本史		1		4		12 (2)		25 (3)					21 (2)				63 (7)
東洋史		1		2		6		14 (4)					12 (2)				35 (6)
西洋史	1 (1)			6 (1)		14 (2)		26 (9)					24 (6)		1 (1)		72 (20)
考 古						1		8 (3)			1		5				15 (3)
美術史				2 (1)		1		12 (10)					13 (5)				28 (16)
計	1 (1)	2		14 (2)		34 (4)		85 (29)				1	75 (15)		1 (1)		213 (52)
言 語				4 (2)		3		13 (1)		1			8 (3)	1			30 (6)
国 語			2	3		4 (1)		9 (2)			2		4				24 (3)
国 文	1		2			5 (1)		16 (4)				2 (2)	16 (9)				42 (16)
中 文				1			1 (1)	3					4	1			10 (1)
印 文						1							1	1 (1)			3 (1)
英 文				1		11		27 (6)	1				27 (5)				67 (11)
独 文			1			1		3 (1)	1 (1)		1		2				9 (2)
仏 文			1 (1)	2		4 (1)	1	7 (1)					4 (1)	1 (1)			20 (5)
スラヴ								1									2
南欧文						1 (1)			2 (2)					1 (1)			4 (4)
現 文				1		4 (2)	1 (1)	8 (3)			2 (1)		6 (2)				22 (9)
西古典								3			1		2	1		1	8
計	1		6 (1)	12 (2)		34 (6)	3 (2)	90 (18)	4 (3)	2	7 (3)		74 (20)	7 (3)		1	241 (58)
心 理				2		5		22 (6)					22 (7)				51 (13)
社 心						8 (2)		24 (13)					23 (11)		1		56 (26)
社 会				2 (2)		20 (6)		51 (17)	1				51 (19)	2 (1)	1		128 (45)
計				4 (2)		33 (8)		97 (36)	1				96 (37)	2 (1)	2		235 (84)
合 計	3 (1)	2	12 (1)	39 (6)	1	126 (21)	6 (2)	342 (102)	7 (3)	2	9 (4)		298 (87)	11 (6)	4 (1)	3	865 (234)
	3 (1)	2	12 (1)	40 (6)		132 (23)			360 (109)					316 (94)			

()は、女子で内数。

平成27(2015)年文学部学生数

平成27(2015)年4月1日現在

	2008	2009	2010	2011	2012		2013		2014				2015				計
	進学	進学	進学	進学	進学	学士	進学	学士	進学	学士	再入	転学	進学	学士	再入	転学	
哲学	1				4	1	6		11 (2)			2	15 (2)	1			41 (4)
中思文			1		2				2	1 (1)			2				5
印 哲						1	2	1	2				2	1 (1)		1	11 (2)
倫 理			1	2			4		9				6		1		23
宗 教							5 (2)		13 (4)	1 (1)			14 (6)				33 (13)
美 学							6 (4)		15 (8)				14 (6)	1			36 (18)
イ 学			1		2 (1)		1		1				2	1		1	9 (1)
計	1		3	2	8 (1)	2	24 (6)	1	51 (14)	2 (2)		2	55 (14)	4 (1)		3	158 (38)
日本史				2	6 (2)		14 (2)		20 (2)				23 (4)			2 (1)	67 (11)
東洋史		1		1	1		6 (3)		12 (2)				12		1		33 (5)
西洋史	1 (1)			1	3 (2)		11 (3)		24 (6)				19 (1)				59 (13)
考 古							2 (1)		6				4 (1)				12 (2)
美術史				1 (1)			4 (3)		13 (5)				13 (9)				31 (18)
計	1 (1)	1		4 (1)	10 (4)		37 (12)		75 (15)				71 (15)		1	2 (1)	202 (49)
言 語				2 (2)			7 (1)		8 (3)	1			9 (3)	1	1		29 (9)
国 語				1			3 (1)		4				1		1	1	12 (1)
国 文	1		1		2		3		16 (9)				19 (7)				42 (16)
中 文									4	1			2		1		8
印 文									1	1 (1)							2 (1)
英 文				1	2		9 (2)		27 (5)				21 (7)			1 (1)	61 (15)
独 文			1						2				2 (1)	1 (1)			6 (2)
仏 文				1			5		5 (1)	1 (1)			5 (3)				17 (5)
スラヴ									1				1	2 (1)			4 (1)
南欧文					1 (1)			1 (1)		1 (1)							4 (3)
現 文				1			1		6 (2)				7 (4)			1	16 (6)
西古典							2		2	1		1	1				7
計	1		2	5 (2)	7 (1)		30 (4)	1 (1)	75 (20)	7 (3)		1	68 (25)	5 (2)	3	3 (1)	208 (59)
心 理				3			4 (1)		23 (8)				23 (5)				53 (14)
社 心							6 (4)		23 (11)		1		22 (9)				52 (24)
社 会				3			8 (2)		50 (18)	2 (1)	1		51 (22)	2			117 (43)
計				6			18 (7)		96 (37)	2 (1)	2		96 (36)	2			222 (81)
合 計	3 (1)	1	5	11 (3)	31 (6)	2	109 (29)	2 (1)	297 (86)	11 (6)	2	3	290 (90)	11 (3)	4	8 (2)	790 (227)
	3 (1)	1	5	11 (3)	33 (6)		111 (30)			313 (92)				313 (95)			

()は、女子で内数。

B 学士入学試験の実施状況

専修課程	出願者		合格者		
	平成23(2011)年	平成24(2012)年	平成25(2013)年	平成26(2014)年	平成27(2015)年
思想文化					
哲学	2 8	0 10	0 8	1 9	0 9
中思文	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1
印哲	2 5	1 8	1 2	1 5	1 4
倫理	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	0 1
宗教	0 2	1 4	1 3	0 2	2 5
美学	0 3	0 2	0 5	1 5	0 7
イ学	0 0	0 1	0 0	1 1	0 0
小計	4 18	2 25	2 18	4 22	3 27
歴史文化					
日本史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
東洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
西洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
考古	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
美術史	1 3	0 6	0 3	0 5	0 1
小計	1 3	0 6	0 3	0 5	0 1
言語文化					
言語	1 5	0 1	1 4	1 2	1 3
国語	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
国文	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
中文	2 3	0 0	1 3	0 1	0 1
印文	0 0	0 1	1 1	0 0	0 1
英文	0 6	1 4	0 3	0 4	0 2
独文	1 2	1 1	0 1	1 2	0 1
仏文	1 3	0 3	1 5	0 5	0 2
スラヴ	1 2	0 0	1 1	2 3	1 2
南欧文	0 0	2 2	1 1	1 3	1 5
現文	1 5	0 4	0 2	0 0	0 1
西古典	0 0	0 2	2 2	0 2	1 1
小計	7 26	4 18	8 23	5 22	4 19
行動文化					
心理	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社心	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社会	1 13	1 13	2 11	2 10	1 10
小計	1 13	1 13	2 11	2 10	1 10
合計	13 60	7 62	12 55	11 59	8 57

C 大学院への入・進学

平成26(2014)年度 大学院学生数		(注)()内は女性、○数字は外国人を示し、内数									
専攻	コース	専門分野	修士課程				博士課程				計
			2014年	2013年	12年以前	計	2014年	2013年	2012年	11年以前	
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	3	5 (3) ③	4 (1) ①	12 (4) ④	2 (1)	4 (1) ①	5 (1) ①	7 (3) ③	18 (6) ⑥
	形象文化	考古学	2	2 (1)	2 (1)	6 (2)		4	5 (1)	3 (2)	12 (3)
		美術史学	2 (1)	3 (3) ①	3 (1) ①	8 (5) ②	4 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3) ①	10 (8) ⑧
	思想文化	哲学	6 (2)	6 (2)	7 (1)	19 (5)	6 (1)	4	3 (1)	9 (1)	22 (3)
		倫理学	1	3 (1)	3	7 (1)	2 (1)	1 (1)	1	3	7 (2) ①
		宗教学宗教史学	3 (1) ①	5 (3) ③	5 (1) ①	13 (5) ②	2 (1) ①	6	5 (2) ①	12 (4) ④	25 (7) ⑦
		美学藝術学	3 (1) ①	2 (1)	1 (1) ①	6 (3) ②	1 (1)	3 (1)		8 (1) ①	12 (3) ③
心理学	心理学	3 (1)	3 (1)	2 (1) ①	8 (3) ①	2 (1)	3 (1)	2	1 (1)	8 (3)	
日本文化研究	日本語日本文学	日本語日本文学	16 (5) ③	11 (4) ②	3 (1)	30 (10) ⑤	2	6 (5) ④	5 (3)	16 (7) ⑦	29 (15) ⑩
	日本史学	日本史学	11 (1) ①	6 (3) ①	3 (1)	20 (5) ②	5 (2)	5 (3) ①	5 (1) ①	10 (2) ②	25 (8) ③
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	4 (4) ④	3 (2) ②	2	9 (6) ⑥	3 (2) ②	4 (4) ③	4 (4) ③	11 (6) ③	22 (16) ⑩
		(東アジアコース) 東アジア歴史社会								2 (1)	2 (1)
		東アジア思想文化	3 (1) ①	1 (1) ①	1 (1)	5 (3) ②	2 (1) ②	2	2	1 (1)	7 (2) ④
		インド文学・インド哲学・仏教学	7 (2) ④	3 (1)	2 (1)	12 (4) ④	2	4	5 (2) ⑤	6 (2) ①	17 (4) ⑦
		(南アジア・東南アジア・仏教コース) 南アジア・東南アジア歴史社会									
		イスラム学	2			2				4 (3) ①	4 (3) ①
		(西アジア歴史社会コース) 西アジア歴史社会								2 ①	2 ①
アジア史	5 (1)	2 (1)	2	9 (2)	5 (3) ③	3 (2)	2 (2)	7 (2) ①	17 (9) ④		
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	1 (1)	3 (1) ①		4 (2) ①	1 (1)	2 (1)	1	2	6 (2)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	4 (3)	5 (2)	2 (1)	11 (6)	1 (1)	1	3 (1)	11 (3)	16 (5)
		南欧語南欧文学	3 (1)		1	4 (1)			1 (1)	1	2 (1)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	8 (3)	7 (3)	3 (1)	18 (7)	6 (4)	4 (1)	4 (3)	16 (8)	30 (16)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	3	3	1	7	2 (1)	5 (2)	4 (3)	6 (5)	17 (11)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	1	1 (1) ①		2 (1) ①	2 (2)	1 (1) ①	3 (1)	4 (1)	10 (5) ①
	現代文芸論	現代文芸論	7 (2)	7 (2) ①	6 (3) ①	20 (7) ②	5 (4) ③	1	5 (2) ①	7 (3)	18 (9) ④
欧米歴史地理文化	西洋史学	7	5 (1)		12 (1)	5 (1)	3	3	7 (3)	18 (4)	
社会文化研究	社会学	社会学	11 (4) ①	6 (4) ③		17 (8) ④	8 (1) ①	4	2 (1) ①	8 (3) ③	22 (5) ⑤
	社会心理学	社会心理学	6 (2)	4	1	11 (2)	2	1 (1) ①	1 (1) ①	8 (3) ②	12 (5) ⑤
	社会情報学	社会情報学									
文化資源学	文化経営学	文化経営学	8 (6) ①	7 (5) ⑤	4 (1) ①	19 (12) ②	3 (3) ①	1 (1) ①	2	5 (5) ①	11 (9) ③
	形態資料学	形態資料学	3 (2)	1 (1)		4 (3)			1	8 (7) ②	9 (7) ②
	文字資料学	文書学			1	1			2 (1)	1 (1)	3 (2)
文献学											
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史社会	韓国朝鮮歴史社会									
	韓国朝鮮言語思想	韓国朝鮮言語思想							1 (1) ①	1 (1) ①	
	北東アジア文化交流	北東アジア文化交流									
	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化	1 (1)	3 (1) ①	1	5 (2) ①	1	2 (2) ②	1 (1) ①	3 (1) ②	7 (4) ⑥
韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	4 (1) ③	4 (3) ①	1 (1) ①	9 (5) ⑤	4 (3) ②	4 (4) ④	2 (2) ④	5 (5) ④	15 (14) ⑩	
合計		138 (46) ②	111 (51) ⑩	61 (18) ③	310 (115) ⑥	78 (37) ⑩	80 (33) ⑩	80 (35) ⑩	198 (88) ⑩	436 (193) ⑩	

平成27(2015)年度 大学院学生数

(注) ()内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程				博士課程				
			2015年	2014年	13年以前	計	2015年	2014年	2013年	12年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	1	3	3	7	2 (1)	2 (1)	4 (1)	10 (3)	18 (6)
	形象文化	考古学	4 (2)	2	1 (1)	7 (3)			2	4 (1)	6 (1)
		美術史学	5 (4)	2 (1)	3 (2)	10 (7)	2 (1)	2 (1)	2 (2)	3 (3)	9 (7)
	思想文化	哲学	4	6 (2)	4 (1)	14 (3)	5 (1)	4	4	9 (2)	22 (3)
		倫理学	2 (1)	1	2	5 (1)	3 (1)	2 (1)	1 (1)	4	10 (3)
		宗教学宗教学	5 (1)	3 (1)	4 (1)	12 (3)	2 (1)	2 (1)	6	14 (5)	24 (7)
		美学藝術学	4 (2)	3 (1)	1	8 (3)	1 (1)	1 (1)	3 (1)	6	11 (3)
	心理学	心理学	1 (1)	3 (1)	1	5 (2)	2 (2)	1	3 (1)	1	7 (3)
	日本文化研究	日本語日本文学	7 (2)	16 (5)	7 (3)	30 (10)	5 (1)	2	6 (5)	12 (8)	25 (14)
		日本史学	7 (2)	11 (1)	2 (2)	20 (5)	6 (2)	5 (2)	4 (3)	10 (2)	25 (9)
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	4 (3)	4 (4)		8 (7)	3 (3)	2 (1)	3 (3)	12 (8)	20 (15)
		(東アジアコース) 東アジア歴史社会									
		東アジア思想文化	1 (1)	3 (1)		4 (2)	1 (1)	2 (1)	2	3 (1)	8 (3)
		インド文学・インド哲学・仏教学	1	7 (2)	1	9 (2)	5 (2)	2	4	7 (2)	18 (4)
		(南アジア・東南アジア・仏教コース) 南アジア・東南アジア歴史社会									
		イスラム学	1	2		3				2 (2)	2 (2)
		(西アジア歴史社会コース) 西アジア歴史社会								1	1
		アジア史	5 (2)	5 (1)	1	11 (3)	2 (1)	5 (3)	3 (2)	8 (4)	18 (10)
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	2	1 (1)		3 (1)	1	1 (1)	2 (1)	3	7 (2)
		フランス語フランス文学	5 (1)	4 (3)	4 (2)	13 (6)	2	1 (1)	1	6 (2)	10 (3)
	ロマンス語圏言語文化	南欧語南欧文学	1 (1)	3 (1)		4 (2)	1			2 (1)	3 (1)
		広域英語圏言語文化	6 (1)	7 (3)	3 (2)	16 (6)	6 (2)	4 (2)	4 (1)	13 (10)	27 (15)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	5 (2)	3	1	9 (2)	3	2 (1)	5 (2)	7 (6)	17 (9)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	3 (1)	1		4 (1)		2 (2)	1 (1)	6 (2)	9 (5)
	現代文芸論	現代文芸論	10 (5)	7 (2)	7 (1)	24 (8)	5 (4)	5 (4)	1	12 (5)	23 (13)
	欧米歴史地理文化	西洋史学	9 (2)	7		16 (2)	4 (1)	5 (1)	3	9 (3)	21 (5)
社会文化研究	社会学	9 (2)	11 (4)	1 (1)	21 (7)	3 (1)	8 (1)	4	9 (4)	24 (6)	
	社会心理学	5 (2)	6 (2)	3	14 (4)	1	2	1 (1)	5 (3)	9 (4)	
文化資源学研究	文化資源学	6 (4)			6 (4)	1 (1)				1 (1)	
	文化経営学	2 (2)	8 (6)	4 (2)	14 (10)	2 (1)	3 (3)	1 (1)	5 (4)	11 (9)	
	形態資料学		3 (2)	1 (1)	4 (3)				4 (2)	4 (2)	
	文字資料学	文書学			1	1				3 (2)	3 (2)
		文献学									
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮言語思想										
	韓国朝鮮歴史文化	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	2	1	2 (2)	2 (2)	7 (4)	
	韓国朝鮮言語社会	3 (3)	4 (1)	2 (2)	9 (6)		4 (3)	4 (4)	5 (5)	13 (12)	
合計			119 (48)	137 (46)	58 (22)	314 (116)	70 (28)	70 (31)	76 (32)	197 (92)	413 (183)

C 学部卒業生の就職状況

平成26(2014)年3月卒業者

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
文学部全体	9 (2)	4	6 (1)	10 (7)	19 (5)	8 (4)	30 (6)	13 (1)	14 (2)	8 (2)	16 (4)	19 (8)	12 (4)	12 (4)		5

(思想文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
哲学	2									1	2	1 (1)	2			
中国思想文化学																
インド哲学仏教学						1 (1)								1		
倫理学							1		1 (1)	1	4 (1)					
宗教学宗教学		1		1 (1)	1		2	3 (1)	1		1 (1)		1 (1)	1 (1)		
美学芸術学	2 (1)			1			1			1 (1)	1	2 (1)	1 (1)			
イスラム学					1											
(思想文化学科計)	4 (1)	1		2 (1)	2	1 (1)	4	3 (1)	2 (1)	3 (1)	8 (2)	3 (2)	4 (2)	2 (1)		

(歴史文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
日本史学	1	2		1	2 (1)	2 (1)	1				3 (1)		2 (1)	1		
東洋史学					1		4 (1)	1	3		2		1	1		
西洋史学					2	2 (1)	4	3	1		1			1 (1)		
考古学	1									1						
美術史学	1			2 (2)			1 (1)	1				1	1	2 (1)		
(歴史文化学科計)	3	2		3 (2)	5 (1)	4 (2)	10 (2)	5	4	4 (1)	3	1	4 (1)	5 (2)		

(言語文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
言語学				1 (1)	1 (1)		1									
日本語日本文学(国語学)					1 (1)			1								
日本語日本文学(国文学)	1 (1)			2					1		1 (1)	2 (2)				
中国語中国文学			1		1											1
インド語インド文学																
英語英米文学			1 (1)		2 (1)		3 (2)	1				3 (1)		2		1
ドイツ語ドイツ文学																
フランス語フランス文学	1				1				1				1			
スラブ語スラブ文学																
南欧語南欧文学							1									
現代文芸論					1			1								
西洋古典学																
(言語文化学科計)	2 (1)		2 (1)	1 (1)	9 (3)		5 (2)	3	2		1 (1)	6 (3)	1	2		2

(行動文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
心理学			1	2 (2)		1	5 (1)		2		1 (1)	3	1	1		
社会心理学				2 (1)	1		3 (1)		2 (1)		1	3 (2)	2 (1)			1
社会学	1	3			2 (1)	2 (1)	3	2	2	1	2	3 (1)		2 (1)		2
(行動文化学科計)	1	4		4 (3)	3 (1)	3 (1)	11 (2)	2	6 (1)	1	4 (1)	9 (3)	3 (1)	3 (1)		3

()内は、女子で内数

平成27(2015)年3月卒業者

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
文学部全体	6 (2)	6 (2)	7 (1)	13 (2)	17 (6)	9 (4)	35 (6)	19 (6)	14 (6)	8 (5)	31 (1)	18 (2)	13 (5)	27 (8)	7 (1)	2 (1)

(思想文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
哲学	1 (1)			4 (1)	3				1		1	1				
中国思想文化学																
インド哲学仏教学																
倫理学	1	1	1	2			1	1 (1)			3		1	1		
宗教学宗教学			1				4 (2)	1	1		1	2	1 (1)			
美学芸術学			1 (1)	1	2 (1)				2 (2)		1 (1)	1	1	1		1
イスラム学				1												
(思想文化学科計)	2 (1)	1	3 (1)	8 (1)	5 (1)		5 (2)	2 (1)	4 (2)		6 (1)	4	3 (1)	2		1

(歴史文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
日本史学		1		1			1	1	2 (1)						6	
東洋史学					1 (1)		3	2			1		1	1	2	
西洋史学	1			1			4 (1)	4	1 (1)	1	4	1	2	1	1 (1)	
考古学					2 (1)		1									
美術史学										1 (1)				1 (1)	2 (2)	
(歴史文化学科計)	1	1		2	4 (2)		9 (1)	7	3 (2)	2 (1)	5	3	4 (1)	10 (2)	3 (1)	

(言語文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
言語学			1		1						3	1		1		
日本語日本文学(国語学)					2 (1)		1	2	1		2	2				
日本語日本文学(国文学)	1 (1)	1					2 (1)		1		1	4 (1)	2 (1)	1 (1)		
中国語中国文学			1				1									
インド語インド文学																
英語英米文学			1				4 (1)	3 (1)			4	1	1	2	1	1 (1)
ドイツ語ドイツ文学																
フランス語フランス文学					1	1 (1)	1						1	1 (1)		
スラブ語スラブ文学											1					
南欧語南欧文学																
現代文芸論	1 (1)	1 (1)											1 (1)	1 (1)		
西洋古典学																
(言語文化学科計)	1 (1)	4 (2)	3		5 (1)	6 (2)	8 (2)	2	3		11	8 (1)	5 (2)	6 (3)	1	1 (1)

(行動文化学科)

業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
専修課程																
心理学	1				2 (1)	1	5	2 (1)	1		2					2
社会心理学	1			1		2 (2)	6 (1)	2 (2)		2 (1)	3			4 (2)		
社会学			1	2 (1)	1 (1)		2	4 (2)	3 (1)	4 (3)	4	3 (1)	1 (1)	5 (1)	1	
(行動文化学科計)	2		1	3 (1)	3 (2)	3 (2)	13 (1)	8 (5)	4 (1)	6 (4)	9	3 (1)	1 (1)	9 (3)	3	

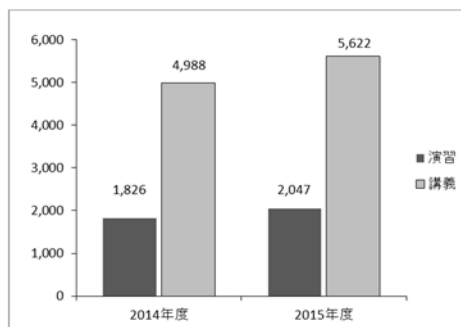
()内は、女子で内数

D 授業改善への取り組み

2009 年度より研究科・文学部の取り組みとして、専任および非常勤教員と各研究室の協力を得て、授業改善アンケートを実施している。集計作業は、教育研究情報管理室が行なっている。このうち 2014 年度・2015 年度に実施したアンケートの回答結果（[Q7]は除く）は下記の通りである。

なお、専攻ごと、学科ごとの集計も行なっているが、ここには、研究科・文学部全体の集計結果のみを掲載する。

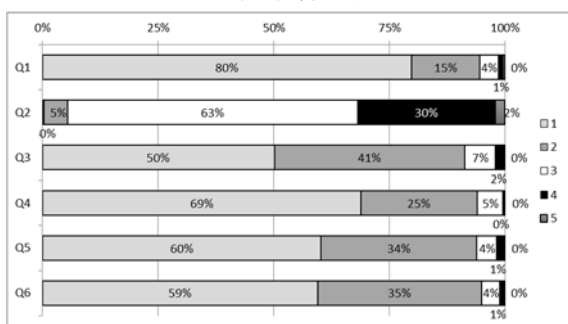
2014-2015 年度 アンケート回答総数



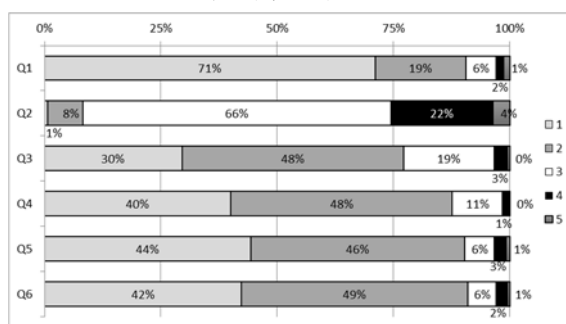
授業改善アンケート質問項目

- [Q1] あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか？
 1- 80%以上 2- 79%~60% 3- 59~40% 4- 39%~20% 5- 20%未満
- [Q2] あなたにとって授業の難易度はどうですか？
 1- 易しすぎる 2- やや易しい 3- ちょうどよい 4- やや難しい 5- 難しすぎる
- [演習 Q3] 授業中、議論・質問の機会は適切に与えられていると思いますか？
 1- 非常に適切である 2- 適切である
 3- どちらでもない 4- あまり適切でない
 5- まったく適切でない
- [講義 Q3] 教員の講義技術（説明の仕方や板書など）について、どう思いますか？
 1- 非常に優れている 2- 優れている
 3- どちらでもない 4- 劣っている
 5- 非常に劣っている
- [演習 Q4] 授業中の質問に対する先生の対応はどうか？
 1- 大変熱心である 2- 概ね熱心である
 3- 普通である 4- あまり熱心でない
 5- 不熱心である
- [講義 Q4] 授業はよく準備・計画されていると思いますか？
 1- とてもよく準備されている 2- よく準備されている
 3- どちらでもない 4- やや準備不足である
 5- 準備不足である
- [Q5] 授業を受講して、この授業がテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか？
 1- 大いに深まった 2- やや深まった 3- どちらでもない 4- あまり深まらなかった
 5- まったく深まらなかった
- [Q6] 授業を受講して、新たな知識や知力が身についたと感じますか？
 1- 非常に感じる 2- やや感じる 3- どちらでもない 4- あまり感じない
 5- まったく感じない
- [Q7] 授業方法、設備などに関する改善要望や、その他意見、感想があれば下記および裏面に記入して下さい。（自由記述欄）

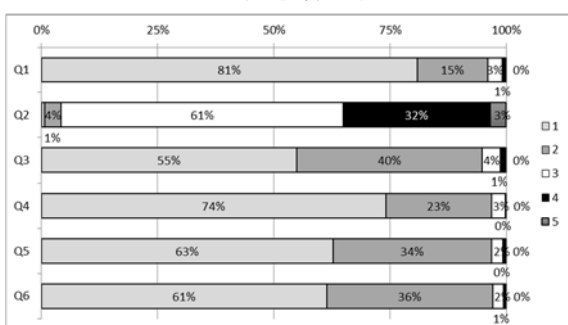
2014 年度演習 回答傾向



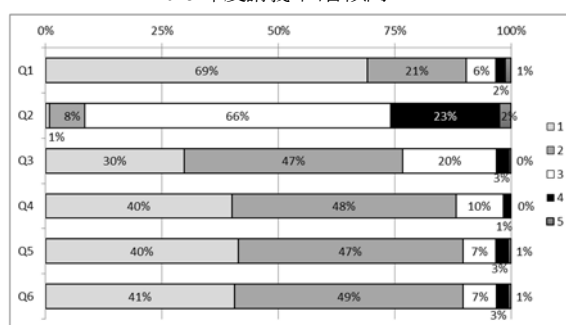
2014 年度講義 回答傾向



2015 年度演習 回答傾向



2015 年度講義 回答傾向



3. 国際交流

(1) 留学生教育と国際交流活動

A 留学生教育

人文社会系研究科・文学部の留学生は、正規の学部生・大学院生、研究生が多く占め、日本語による論文執筆が課せられているため、アカデミックな日本語の習得は必須である。しかしながら、論文作成に特化して日本語が学べる大学院科目がなく、その設置が多くの院生の悲願であった。その要望を受け、2014年度冬学期から新たに「日本語アカデミック・ライティング」が開講され、論文作成に必要な日本語が学べると同時に単位も取得できるようになった。繰り返し受講する者もあり、毎学期12人程度の受講がある。

最近、特別聴講学生・特別研究学生の受け入れ増加にともない、全体として日本語能力が十分でない者も増え、多様化が進んでいる。学位取得を目的とする者と、1年以内の滞在で日本語学習や異文化体験を目的とする者では必ずその目指すところは異なるため、これまで実施してきた、院生・研究生を主対象とする学業・生活支援および日本語指導のあり方を検討する必要性が生じてきている。

こういった実態への対応の方向性を探るため、2015年度夏学期に帰国前の特別聴講学生5人に対して意見聴取を行った。5人は、1) 日本語教室の日本語科目では単位が取得できないため、よく理解できないまま専門の授業を受講せざるをえず、それが日本語科目の受講を妨げていた、2) 日本人と交流のできる貴重な時間である、授業の間の休み時間が短く、ほとんど日本人と交流ができなかった、3) 研究室での居場所がなく、行きにくかった、といった問題点を挙げていた。大学生活の中に交流の場が設定されていないこと、各研究室における彼らの位置づけが不明確なこともあって、孤立しやすい立場にあること、それらの結果として日本語の学習も進まないことが明らかになった。そこで、2015年度冬学期より、誰でも参加できる「ランチの会」を毎週行くとともに、年末には「お雑煮会」を行なっている。その結果、参加した留学生の範囲に限られるが、留学生間の交流が活発になってきている。

日本人との交流が進まないという問題は、院生・研究生にも当てはまる。長く在籍していて、日本語能力が高い院生であっても、日本人同士の雑談の輪に入っていくのは難しく、指導教員との親和性を生む雑談もうまくできずと悩む者は少なくない。指導教員を含む日本人との交流は研究生活において精神的安定に役立つだけでなく、論文を書く為の情報入手や日本語支援にもつながり、非常に重要なものであると言える。そこで、これに対応すべく、日本語授業においては、日本人との雑談に役立つ日本人の関心の高い話題を取り上げるとともに、相手に対して関心を持っていることを示す表現などを指導するよう心がけている。2015年度は、これに関わる取り組みとして、指導教員や研究室の先輩・後輩との関係づくりに重要なツールとなっているメールを取り上げ、それが交流促進に機能するよう、「メールの書き方」と題する集中講座を実施した。

その他、院生・研究生の研究支援環境の悪化という問題も生じている。例えば、チューターの確保が難しくなって、適切な配置ができないこともあり、生活や学習の相談が気軽にできにくい環境になってきている。さらに、2000年度にスタートした「三金会」(東京都立高校の校長OB有志の親睦会)による「留学生博士論文作成支援ネットワーク」も2015年6月で終了した。今後、チューターの不足を補完し、これまでの論文作成支援にかわる新たな制度を検討する必要がある。

国又は地域別外国人留学生数

各年度05月01日現在

国名又は地域名	平成 23(2011) 年度	平成 24(2012) 年度	平成 25(2013) 年度	平成 26(2014) 年度	平成 27(2015) 年度
アジア					
インドネシア	1				
韓国	69	66	60	61	61
シンガポール	2	3	4	2	1
タイ	1				1
台湾	11	11	11	11	11
中国	50	50	59	65	71
中国(香港)	1		2	1	1

マレーシア	1				
モンゴル	1	1		1	1
小計	137	131	136	141	147
中近東					
イラン					1
イスラエル	1		1		
パキスタン	1				
小計	2	0	1	0	1
北米					
アメリカ合衆国	6	3	3	1	1
小計	6	3	3	1	1
中南米					
パラグアイ	1	1	1	1	1
ブラジル	1	1	1	1	
ベネズエラ	1	1	1		
小計	3	3	3	2	1
ヨーロッパ					
イギリス		1			2
イギリス(香港)	1	1	1	1	
イタリア	5	2	2	1	1
ウクライナ	1	1	1		
オランダ	1				
カザフスタン		1	1	1	1
キルギス		1	1	1	
スイス	1	1	1	2	
スウェーデン	1				
スペイン					1
セルビア	1	1	1		
チェコ	1	1			
ドイツ		1			1
ハンガリー	1	1			
フィンランド	2	1		1	3
フランス	1	2	2	3	1
ポーランド	2	1	3	1	2
ルーマニア		1	1		
ロシア		3	2	3	3
小計	18	20	16	14	15
合計	166	157	159	158	165

B 留学生派遣

大学院人文社会系研究科・文学部は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。

●海外へ留学・修学した学部生

年度	海外留学・修学者の合計	内訳			
		アメリカ	イギリス	カナダ	その他
平成24 (2012) 年度	海外修学 17名	6名	4名	1名	スイス 2名 ドイツ 1名 韓国 1名 中国 2名
	留学 7名	1名	2名	2名	韓国 1名 シンガポール 1名
平成25 (2013) 年度	海外修学 5名	2名			イタリア 1名 オーストラリア 1名 台湾 1名
	留学 5名	1名	2名		スイス 1名 ロシア 1名
平成26 (2014) 年度	海外修学 4名	2名			クウェート 1名 フィリピン 1名
	留学 9名	1名			オーストラリア 4名 シンガポール 1名 スイス 1名 ドイツ 1名 フィンランド 1名
平成27 (2015) 年度	海外修学 11名	5名	3名		クウェート 1名 パレスチナ自治区 1名 メキシコ 1名
	留学 17名	1名	6名		オーストラリア 1名 オランダ 3名 スイス 2名 デンマーク 1名 フィンランド 1名 フランス 1名 ロシア 1名

●海外へ留学・修学した大学院生

年度	学生身分	異動区分名	計	内訳														
				韓国	台湾	中国	アメリカ	フィリピン	イギリス	イタリア	オーストリア	スイス	ドイツ	フランス	ロシア	その他		
平成24 (2012) 年度	修士課程	休学(海外修学)	1															
		留学	2															
		研究指導委託																
	博士課程	休学(海外修学)	48	1		3	10	1	8	2	3	2	5	7	4	タイ 1名 イスラエル 1名		
留学		10			1		1	1			4	1	1	フィンランド 1名				
研究指導委託		13	1				1				1	1	9					
平成25 (2013) 年度	修士課程	休学(海外修学)	3										2		カナダ 1名			
		留学																
		研究指導委託																
	博士課程	休学(海外修学)	38	2		3	7	2	8	1	2		4	6	1	インド 1名 メキシコ 1名		
留学		12		1		2		1			1	3	4					
研究指導委託		11		1								2	6	1	ウズベキスタン 1名			
平成26 (2014) 年度	修士課程	休学(海外修学)	3												スペイン 1名 チェコ 2名			
		留学	2									1			ベルギー 1名			
		研究指導委託	0															
	博士課程	休学(海外修学)	41	3	1	2	6	2	6		3	1	4	7	インド 1名 ベトナム 1名 イラン 1名 メキシコ 1名 ウズベキスタン 1名 ポーランド 1名			
留学		9	1			1		2	2			1	2					
研究指導委託		13				2				1		1	4	1	インド 1名 トルコ 1名 スペイン 1名 デンマーク 1名			
平成27 (2015) 年度	修士課程	休学(海外修学)	3				1								チェコ 1名 ベルギー 1名			
		留学	7						3				1		オーストラリア 1名 チリ 1名 フィンランド 1名			
		研究指導委託	0															
	博士課程	休学(海外修学)	31	2		2	7	1	3	2	1	1	3	3	1	ベトナム 1名 イラン 1名 トルコ 1名 スペイン 1名 ベルギー 1名		
留学		7						2				1	1	3				
研究指導委託	8							1				5	1	インド 1名				

C 外国人研究員受け入れ

本学は、多くの海外諸機関と学術協定を結んでおり、研究者の交流も活発に行なわれている。
毎年、海外から研究者を人文社会系研究科内規によって人文社会系研究科外国人研究員として受け入れている。

●外国人研究員（国籍別人数）

（※文学部／大学院人文社会系研究科内規による）

国または地域名	平成 23(2011) 年度	平成 24(2012) 年度	平成 25(2013)年 度	平成 26(2014) 年度	平成 27(2015) 年度
韓国	8	4	7	6	3
台湾				2	
中国	6	13	14	13	16
インド			1	1	
スリランカ			1		
フィリピン					1
イスラエル		1		1	1
オーストラリア		1	1	1	1
アメリカ合衆国	2	4	1	6	10
カナダ				2	
イギリス	1	1	1	2	
イタリア	1	6	1	1	2
オーストリア				1	1
オランダ					1
スイス		1			
ドイツ	4	2	1		4
ハンガリー	1	1		1	1
フランス		1	2	2	3
ブルガリア	1		1		
ポーランド		1	4	3	5
ルーマニア				1	
ロシア		2		1	1
計	24	38	35	44	50

D 夏期・冬期特別プログラム

文学部では、2014年1月に英国・セインズベリー日本藝術研究所との間で部局間国際交流協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、2014年度から夏期特別プログラムを、2015年度から冬期特別プログラムを実施している。夏期特別プログラムは、夏期の授業休止期間を利用して、英国を始めとする欧州から学部生4～5名を東大本郷キャンパスと研究科附属常呂実習施設(北海道北見市)に招き、英語を使用言語としながら、座学、遺跡の体験発掘、博物館・美術館見学、史跡踏査、グループワーク等を通して、考古学・美術史学・文化遺産等を学んだ。冬期特別プログラムでは、反対に東大生5名が、ロンドンとセインズベリー研究所がある英国南東部のノーフォーク州を訪れ、同様の学習と交流体験を積んだ。

本プログラムは、学部後期課程全体に開かれているため、東大側の参加学生は文学部に限られず、法学部や教養学部からの参加もあった。約2週間にわたるプログラム期間中は、東大と欧州の学生たちはホテルや宿舎で同室となるため文字通り寝食を共にしながら、グループワーク・体験学習等の様々な国際交流体験を積む。そのため最初は英語が苦手な会話や議論に参加しづらかった学生も、プログラム終了近くになると互いに学問や人生観を戦わずまでになる。参加学生の枠は限られているが、その分丁寧なスケジューリングにより濃密な体験を経ることで高い教育効果を上げることができている。

特別プログラム	期間・実施場所	参加学生
2014年度夏期	2014年7月30日～8月13日 東京/常呂実習施設	東大4名(文3、法1) 海外4名(英3、独1)
2015年度夏期	2015年8月1日～15日 東京/常呂実習施設	東大4名(文1、教養3) 海外5名(英3、独1、スイス1)
2015年度冬期	2016年2月13日～26日 ロンドン/ノーフォーク州	東大5名(文3、教養2) 海外5名(英3、独1、スイス1)

E 「新・日本学」構想に向けた海外研究者による特別講義シリーズ

実施期間	平成28年1月6日～平成28年1月29日
実施状況	<p>【特別講義シリーズⅠ】 テーマ：日本中近世の画家と米国における日本美術展覧会 招聘教授：Yukio Lippit 教授（ハーバード大学美術史・建築史学部） 開講日時：平成28年1月6日～1月8日 11:00～17:00 出席者数：17名</p> <p>【特別講義シリーズⅡ】 テーマ：Japanese Literature in World Context 招聘教授：Haruo Shirane 教授（コロンビア大学東洋言語文化学部学部長） 開講日時：平成28年1月18日～1月19日 13:00～18:00 出席者：25名</p> <p>【特別講義シリーズⅢ】 テーマ：ヨーロッパにおける日本語研究の現状と成果 招聘教授：Bjarke Frellesvig 教授（オックスフォード大学東洋学部・日本語学） 開講日時：平成28年1月28日・29日 13:00～18:00 出席者：18名</p> <p>本事業は、日本文学、日本語学、日本近代美術史を専門とする3名の著名な研究者を海外から招聘し、東京大学大学院人文社会系研究科の大学院生に向けて英語による授業を提供するものである。東京大学にいながらにして、欧米における当該分野の代表的研究者から直接指導を受ける経験は、本学の学生にとって極めて刺激的で国外への日本学発信に向けての強い動機付けを与えることができた。</p> <p>本事業を実施した効果は、双方向形式の英語による授業は、学生たちの知的関心を刺激し、出席者アンケートから新たな日本学に向けた有意義な経験であったとの声に認められた。本事業を継続、発展させることで、次世代の「新・日本学」構想を展開する際の国際的なハブ構築設立への一助となった。</p>

F オークランド大学アカデミック英語研修派遣プログラム

実施期間	平成 28 年 3 月 5 日～平成 28 年 3 月 19 日
実施状況	<p>本事業は、人文社会学系研究分野の成果を積極的に国外発信するために、(1)高度なアカデミック英語の習得と、(2)若手教員のファカルティ・ディベロップメント (FD) の一環として英語による授業提供のためのトレーニングを受けることにある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加プログラム：オークランド大学附属英語アカデミー (English Learning Academy 【略称：ELA】) での語学研修プログラム ・参加者数： 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程・博士課程所属院生 9 名 東京大学大学院人文社会系研究科助教 3 名 ・募集方法： 2015 年 11 月に東京大学文学部の website で告知、募集開始。参加申込者に対し、書類選考の後、12 月に申込者に通知。 ・プログラム概要： ELA の指導のもと、授業では全体を通して、アカデミックな場面におけるリスニング、スピーキング、ライティングに焦点が置かれた。英語を実際に使って交流、口頭発表、議論を行う機会も積極的に組み込まれた。二週目以降は、受講者たちの問題関心に近いオークランド大学の授業を聴講する機会があり、今後、研究者として海外で活躍するための知識を習得した。 <p>本事業を実施しての効果として 2 点ある。まず、3 名の若手研究者にとって、大学院生の引率をはじめ授業受講にあたっての相談に乗るなど、海外にて実質的な FD の経験を積むことができ、研究のみならず教育の現場を体感することができた。第 2 に、大学院生たちにとっては、英語によるプレゼンや議論を重ねることで、今後、海外での研究活動を視野にいれたキャリアプランを立てる強い動機付けとなった。本事業が、世界的視野をもった「知のプロフェッショナル」を育成するための基礎力養成としての高い効果を認めることができた。</p>

(2) 国際交流協定

A 学術・学生関係

2016年5月1日現在

国名等	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
インド	1	デリー大学	総長、人文科学研究科 委員会委員長	副総長、事務局長	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・学科を指定)
			1980/3/25 1983/3/25 1986/4/22 1992/7/8	1980/5/1 1983/5/2 1986/5/1 1992/7/20		
中国	2	北京大学	総長	校長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1985/3/25 2003/12/17 2009/7/21 2014/3/20	1985/3/25 2003/11/7 2009/7/21 2014/6/11		
韓国	3	ソウル大学校	総長	総長	相互に関心を持つ分野	1. 教員 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
			1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21 2005/10/29 2012/7/25	1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22 2005/10/29 2012/5/5		
	4	高麗大学校	総長	総長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2005/10/28 2014/3/27	2005/10/28 2014/4/18		
イラン	5	テヘラン大学	総長	総長	(派遣)イスラム学、ペルシア語・ペルシア文学、イラン史学等 (受入)日本語・日本文学、日本史学等	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 情報及び学術資料の交換 4. 共同研究、合同シンポジウム及び講義などの活動
			1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25 2009/9/19 2013/2/20	1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12 2009/9/19 2013/4/28		
エジプト	6	カイロ大学	総長	学長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1998/7/3 2005/6/27	1998/7/3 2005/7/11		
北米	7	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	総長	学長、理事会	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2001/7/3 2006/9/13 2012/1/10	2001/7/3 2006/10/4 2012/3/23		
イタリア	8	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	総長	総長	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議、セミナー、研究課題の講習会の開催
			1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22 2014/12/17	1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7 2015/2/5		
	9	パドヴァ大学	総長	学長	相互に関心を持つ分野	1. 研究者 2. 学生、大学院生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 大学教育に付随する業務分野での活動 5. 学術会議や研究会への参加
			1993/1/7 1998/4/14 2003/3/14 2008/3/7 2014/1/24	1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14 2014/2/17		
	10	フィレンツェ大学	総長	学長	共通の関心を有する分野	1. 教官、研究者、大学院生 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
			1998/7/24 2003/11/26	1998/7/30 2003/10/6		
	11	ピサ高等師範学校	総長	校長	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
			2002/5/30 2007/4/4	2002/6/10 2007/4/19		
スイス	12	ジュネーブ大学	総長	学長	両大学が関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1997/7/2 2002/7/2 2007/6/6 2009/2/24 2012/11/5	1997/7/2 2002/7/22 2007/6/26 2009/3/20 2012/8/6		
ドイツ	13	ホッフム・ルール大学	総長	総長	日文学、シナ学、ドイツ文学・語学・哲学、歴史学、美術史学、人文地理学	1. 教授・助教授・専任講師及び研究助手 2. 稀少な文献または資料の印刷物
			1969/5/23	1969/7/14		
フランス	14	エコール・ノルマル・スーペリウール	総長、人文科学研究科長	校長、国際交流部長	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1993/2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8、2/13 2015/2/9	1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4 2015/3/28		
オランダ	15	ワルシャワ大学	総長	総長	(派遣)スラヴ学 (受入)日文学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換
			1978/4/1	1978/5/10		
ロシア	16	ロモノソフ記念モスクワ国立大学	総長、副学長	総長、副学長	学術研究上共通の関心を持つ分野	1. 教官、研究者、大学院生、学部学生 2. 共同研究 3. 講義及びシンポジウムの開催 4. 情報及び学術刊行物の交換
			1998/4/7 2003/5/13 2015/7/28	1998/4/7 2003/6/24 2015/8/17		

B 部局間協定

2016年5月1日現在

国名等	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
中国	1	北京大学歴史学系	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史学系主任	相互に関心のある分野	学生の交流
			2006/7/21、8/3 2008/9/8、9/16 2011/7/1、7/5	2006/8/21 2008/9/19 2011/7/20		
	2	山東大学文史哲研究院・ 韓国研究中心	人文社会系研究科長・文学部長	研究院長・ 研究中心主任	双方に関心を持つ教育研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
3	香港中文大学大学院	人文社会系研究科長	文科大学長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学部学生、大学院生	
		2011/2/1	2011/1/27			
台湾	4	中央研究院人文社会科学 研究センター地理情報科 学研究センター	人文社会系研究科長	研究中心主任、執行長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
			2013/10/11	2013/10/22、10/21		
韓国	5	ソウル大学校人文大学	人文社会系研究科長	人文大学長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2005/7/11 2012/6/4	2005/8/10 2012/5/5		
	6	高麗大学校文科大学	人文社会系研究科長	人文大学長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2005/10/31	2005/10/28		
7	釜山大学校人文大学	人文社会系研究科長	人文大学長	相互の必要と認める分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 学術情報及び資料の交換	
		2005/1/13 2010/6/5 2011/9/22	2005/2/17 2010/2/17 2011/10/10			
8	成均館大学校儒学・東洋 学部	人文社会系研究科長・文学部長	学部長	それぞれが関心を持つ学術研究領域	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換	
		2006/11/2 2012/1/17	2006/11/11 2012/1/27			
モロッコ	9	アブデルマレク・エッサーディー大学 文学部	総長、人文社会系研究科長	総長、文学部長	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 学生 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議及びシンポジウムの開催
			1998/3/24	1998/3/24		
			人文社会系研究科長	文学部長		
10	マンチェスター大学 人文学部	人文社会系研究科長	人文学部長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生	
		2009/8/24	2009/9/7			
11	セインズベリー 日本藝術研究所	人文社会系研究科長・文学部長	統括役所長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生	
		2015/1/6	2015/1/6			
12	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 東洋研究学部	人文社会系研究科長	東洋研究学部長	(派遣)イタリア語、イタリア文学 (受入)日本語、日本文学 その他、双方の合意によって決められた分 野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 研究会、セミナー、研究課題の講習会 4. 学術情報及び出版物の交換	
		2009/10/23 2014/12/25	2009/11/5 2015/1/27			
13	ベオグラード大学 文学部、哲学部	総合文化研究科長・教養学部長、 人文社会系研究科長・文学部長	文学部長、哲学部長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換	
		2007/11/16、11/22 2013/6/24、6/27	2008/2/6、2/7 2013/7/17			
14	ベルリン自由大学 歴史文化学部、大学院東ア ジア研究科、シュレーゲル 大学院文学研究科	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史文化学部長、文学研究 科長、東アジア研究科長	相互に関心のある分野	学生の交流	
		2013/2/13、2/19	2013/2/27			
15	エコール・ノルマル・スーペリエール/ 文学・人文科学リヨン校	人文社会系研究科長	校長	相互に関心のある分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究の実施 4. 学術情報及び資料の交換	
		1999/10/19 2002/9/25 2013/2/21	1999/10/13 2002/10/15 2013/3/20			
16	フランス極東学院	人文社会系研究科長	学院長	それぞれが学術研究及び教育上関心を持 つ分野	1. 教官、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換	
		2001/3/3 2006/3/13 2012/1/7	2001/3/13 2006/3/13 2012/2/9			

(3) 国際研究協力

A 海外渡航

平成26(2014)年度		平成27(2015)年度	
全体 214件 (外国出張 194件 海外研修 20件)		全体 245件 (外国出張 221件 海外研修 24件)	
教授	126件	教授	139件
特任教授	1件	特任教授	0件
准教授	66件	准教授	63件
特任准教授	2件	特任准教授	8件
助教	10件	助教	24件
特任助教	0件	特任助教	5件
講師	6件	講師	2件
外国人教師	3件	外国人教師	4件

B 外国人客員教員・研究員(客員)

<外国人教員>

フランス語フランス文学専修課程

シモン-オイカワ、マリアンヌ
(2006.10.16~2016.10.15)

南欧語南欧文学専修課程

アマート、ロレンツォ
(2011.4.18~2017.3.31)

哲学専修課程

ディーツ、リチャード
(2011.10.1~2016.9.30)

ドイツ語ドイツ文学専修課程

ケプラー タサキ、シュテファン
(2012.10.1~2016.9.30)

附属次世代人文学開発センター

ミュラー、アルバート チャールズ
(2013.11.1~)

中国思想文化学専修課程

徐 聖心 (2014.4.1~2015.8.31)

<特任教員(旧外国人研究員(客員Ⅲ種))>

文化資源学専攻

コールドレイク、ウィリアム ハワード
(2011.10.1~2014.9.30)

韓国朝鮮文化研究専攻

黄 善燁 (2014.4.1~2015.2.28)

文化資源学専攻

バウシュ、イローナ
(2014.10.1~2017.3.31)

韓国朝鮮文化研究専攻

李 亨眞 (2015.4.1~2017.3.31)

C 外国人教師

[()内は国籍]

専修課程	平成22 (2010) 年度	平成23 (2011) 年度	平成24 (2012) 年度	平成25 (2013) 年度	平成26 (2014) 年度	平成27 (2015) 年度
英語英米文学	1名(英)					
ドイツ語ドイツ文学	1名(独)					
南欧語南欧文学	1名(伊)					

4. 研究費の受け入れ

(1) 科学研究費補助金・助成金・一部基金

平成26(2014)年度

【補助金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成26年度 直接経費	平成26年度 間接経費	研究課題名
新学術領域研究(研究領域提案型)	25119003	村上郁也	12,400,000	3,720,000	こころの時間長・同期・クロックを作り出す認知メカニズムの解明
基礎研究(S)	23222001	斉藤明	14,400,000	4,320,000	仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集(バウダコーシャ)の構築
基礎研究(A)	23242001	清水哲郎	6,900,000	2,070,000	ケア現場の意思決定プロセスを支援する臨床倫理検討システムの展開と有効性の検証
基礎研究(A)	23242004	丸井浩	9,200,000	2,760,000	インド哲学諸派における「存在」をめぐる議論の解明
基礎研究(A)	23251014	大貫静夫	6,900,000	2,070,000	環日本海北回廊の考古学的研究
基礎研究(A)	25243002	沼野充義	4,000,000	1,200,000	越境と変容—グローバル化時代におけるスラヴ・ユーラシア研究の超域的枠組みを求めて
基礎研究(A)	25244038	松葉博己	8,600,000	2,580,000	植物・土器・人骨の分析を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究
基礎研究(A)	25257008	市川裕	9,200,000	2,760,000	ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究
基礎研究(A)	26244002	横手裕	12,500,000	3,750,000	宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の調査と研究
基礎研究(B)	22330145	佐藤健二	2,500,000	750,000	社会調査史の多文化的な構築に関する総合研究
基礎研究(B)	23320060	高橋和久	3,500,000	1,050,000	英文学教育の理念・目的および方法に関する体系的な研究
基礎研究(B)	23320061	大橋洋一	2,400,000	720,000	トランスアトランティックな視座からの「アメリカ文学」概念の成立と変容
基礎研究(B)	23320066	中地義和	1,800,000	540,000	フランス近代作家の歴史意識
基礎研究(B)	23320166	熊木俊朗	2,300,000	690,000	戦国文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動
基礎研究(B)	23320190	本田洋	2,000,000	600,000	韓国社会の生き方に関する人類学的研究:グローバル化する競争社会における折衝と離脱
基礎研究(B)	23330003	葛西康徳	1,800,000	540,000	ギリシア・ローマ民事訴訟再検討—裁判手続と法廷弁論—
基礎研究(C)	22520076	菊地達也	500,000	150,000	シーア派・スンナ派間の宗派論争に関する思想史的研究
基礎研究(C)	22520231	阿部公彦	600,000	180,000	西洋文化圏における「凝視」と「注意」の文化史的意義の研究
基礎研究(C)	22520492	渡邊明	500,000	150,000	統語演算における数の素性の役割
基礎研究(C)	22530532	赤川学	600,000	180,000	人口減少に対応する社会制度構想の総合的研究
研究活動スタート支援	25884015	小川道大	800,000	240,000	18-20世紀におけるインド西部の社会経済変化・ブネー県インダプル郡を事例に

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成26年度 直接経費	平成26年度 間接経費	研究課題名
基礎研究(C)	26360040	姫岡とし子	1,300,000	390,000	近代ドイツのナショナリズムと女性の政治化—植民地問題を中心として
基礎研究(C)	26370052	加藤弘二郎	900,000	270,000	『解深密経』におけるツェルバ・テンパム商系統のテキスト比較分析
基礎研究(C)	26370053	大島智晴	1,100,000	330,000	ヴェーダ文獻の権利解釈学に表れる死生観の研究
基礎研究(C)	26370064	西村明	1,400,000	420,000	ポスト9学連調査の宗教学的意義研究
基礎研究(C)	26370272	Stephen Clark	1,100,000	330,000	Romantic Connections: Locating European Romanticism in a Global Context
基礎研究(C)	26370353	Marianne Simon-Oikawa	1,300,000	390,000	16世紀から21世紀までのフランスにおける視覚詩の総合的な研究
基礎研究(C)	26370378	平野嘉彦	1,200,000	360,000	パウル・ツェラーンの抒情詩—人間学と自然史のはざまに
基礎研究(C)	26370475	小林正人	900,000	270,000	南アジアの山岳少数言語における文法の複雑化
基礎研究(C)	26370528	肥田周二	900,000	270,000	訓点資料を利用した日本語音節構造史の研究
基礎研究(C)	26370818	吉澤誠一郎	1,300,000	390,000	20世紀初頭の中国における帝制と共和の論理
基礎研究(C)	26370850	橋場弦	1,600,000	480,000	古代ギリシアにおける和解と調停の比較文化史的研究
基礎研究(C)	26380644	祐成保志	1,300,000	390,000	ハウジングの社会学における基本問題の方法史的検討
挑戦的萌芽研究	26580001	関根清三	1,400,000	420,000	倫理と宗教の相克と協働—ヘブライズム・ヘレニズムの交錯をめぐる比較研究
挑戦的萌芽研究	26580002	高山守	1,400,000	420,000	手話言語における哲学表現の可能性について
若手研究(B)	26770003	松浦和也	800,000	240,000	ギリシア自然哲学の展開とペリパトス派の受容
若手研究(B)	26770005	渡辺一弘	1,200,000	360,000	徳認識論と徳倫理学:「徳(virtue)」概念のヒュームの再構成
若手研究(B)	26770021	石田尚敬	1,200,000	360,000	後期インド仏教における認識論・論理学の体系化—新出写本による校訂と資料環境整備—
若手研究(B)	26770028	江川純一	500,000	150,000	イタリヤ宗教史学派の宗教理解に関する体系的な研究
若手研究(B)	26770032	新田昌英	900,000	270,000	近代フランスの感情研究
若手研究(B)	26770117	内藤真奈	1,000,000	300,000	欧米文学における社会文化的観点から見たエイズ表象形成の研究
若手研究(B)	26770216	三ツ松誠	800,000	240,000	国学者長野義言の基礎的研究
若手研究(B)	26770252	菊地重仁	1,100,000	330,000	カロリング朝フランク王国における政治秩序の実現と文書の機能についての研究
若手研究(B)	26780412	新美亮輔	1,100,000	330,000	手の視覚的認知の研究
若手研究(B)	26870160	片岡大石	700,000	210,000	ヨーロッパ理念とその政治的・社会的反響—ローマ主義、欧州統合、レイシズム
基礎研究(C)	23520131	佐々木健一	800,000	240,000	新田美学における基礎概念の研究
基礎研究(C)	23520209	安藤宏	900,000	270,000	近代文学関係定期刊行物の総合的研究
基礎研究(C)	23520505	三谷恵子	700,000	210,000	言語の維持と変容についての総合的研究—スラヴ系少数言語の実証的分析をふまえて—
基礎研究(C)	23530816	村本由紀子	1,000,000	300,000	関係性の類型と拡張自己評価維持過程
若手研究(B)	23720176	竹内恵子	400,000	120,000	亡命ロシア文学におけるアメリカ文化受容の諸相
若手研究(B)	23720379	園木田大	700,000	210,000	環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究
基礎研究(C)	24520007	Dietz Richard	2,100,000	630,000	曖昧性の基礎づけ
基礎研究(C)	24520063	藤原聖子	200,000	60,000	ポスト多文化主義における公教育と宗教の関係
基礎研究(C)	24520082	柳橋博之	1,100,000	330,000	イスラームにおける伝承の形成と、その法學・思想との関係に関する研究
基礎研究(C)	24520206	渡部泰明	500,000	150,000	『新古今和歌集』の研究
基礎研究(C)	24520367	小椋彩	800,000	240,000	亡命ロシア文化におけるテキストと視覚芸術に関する研究
基礎研究(C)	24520735	佐藤信	800,000	240,000	古代地方官衙における地域間交流の研究
基礎研究(C)	24520826	高山博	1,300,000	390,000	ノルマン・シチリア王国農民の研究—アラビア語、ギリシア語、ラテン語史料の検討から
若手研究(B)	24720024	岩崎陽一	800,000	240,000	インド新論理学派前期の言語理論思想史の解明—ラグナータまでの主要文獻の調査と解説
若手研究(B)	24730301	島田竜登	1,000,000	300,000	萌芽期熱帯産品輸出経済の研究:18世紀の南・東南アジアとオランダ東インド会社
挑戦的萌芽研究	24650577	阿久津正幸	400,000	120,000	ウラマーによる近代科学の受容とムスリム社会の史的構建:信仰と科学の現象学的社会学
挑戦的萌芽研究	24652020	高岸輝	800,000	240,000	絵巻の創成に向けた理論的基盤の構築
挑戦的萌芽研究	24653001	葛西康徳	900,000	270,000	コモン・ローとヒンドゥー法の邂逅—ウィリアム・ジョーンズ研究
基礎研究(C)	24520101	小田部胤久	1,000,000	300,000	感性の理論史—美学(史)の再構築のために
若手研究(B)	24720321	五十嵐大介	900,000	270,000	中世エジプトのイスラーム寄進制度に見る黒死病(ペスト)の影響
挑戦的萌芽研究	24652079	西村義樹	1,200,000	360,000	構造化されたエリステーションの開発と意味研究への応用
挑戦的萌芽研究	24653163	滝沢かおり	1,200,000	360,000	社会心理学とフォーサイコロジーのあるべき生産的な関係に関する理論的・実証的検討
基礎研究(C)	25370044	Muller Albert	7,000,000	300,000	Contextual Chinese-English Dictionary of the Thirteen Classics
基礎研究(C)	25370209	長島弘明	1,100,000	330,000	『古状捕』の総合的研究
基礎研究(C)	25370338	野崎敦	1,200,000	360,000	フランス・ロマン主義における「作者」像の成立と変容をめぐる総合的研究
基礎研究(C)	25370340	大宮勤一郎	900,000	270,000	情動と技術の人間学的考察(ドイツ文学の場合)
基礎研究(C)	25370341	塚本昌則	1,200,000	360,000	近代フランス文学における散文的研究
基礎研究(C)	25370510	月本雅幸	1,100,000	330,000	大日経疏の古訓点についての日本語学的研究
基礎研究(C)	25370764	吉田伸之	1,400,000	420,000	近世仏教の分断的な社会—空間構造に関する基礎的研究
若手研究(B)	25770076	神田祥子	1,200,000	360,000	夏目漱石初期・中期作品における表現の視覚性
挑戦的萌芽研究	25580162	桜井万里子	800,000	240,000	デルヴェニ・パピルスと古代ギリシアにおける多神教と一神教の関係
基礎研究(C)	24520050	高橋晃一	800,000	240,000	論衡学派における「空・無義の思想と利他性・発生救済の関係に関する考察
基礎研究(C)	25370011	賴住光子	600,000	180,000	大乘仏教思想史における道元思想の意義の解明
基礎研究(C)	25370160	平野恵美子	1,200,000	360,000	ジャンル・ヌーヴォーとしてのインド舞踊とロシア・バレエの出会い—多元主義の芸術
基礎研究(C)	25370465	梅谷博之	600,000	180,000	モンゴル語の付属語の自立性に関する研究
若手研究(B)	25770254	河原弥生	600,000	180,000	18-20世紀中央アジアにおけるナクシュバンディー教団改革派の発展に関する研究

【一部基金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成26年度 直接経費	平成26年度 間接経費	研究課題名
基盤研究(B)	24320004	榊原哲也	3,200,000	960,000	ケアの現象学の具体的展開と組織化
基盤研究(B)	24330208	佐藤隆夫	2,500,000	750,000	誘導色残像現象の総合的な検討—残像に皮質は関与するか—
基盤研究(B)	25284036	渡辺裕	1,900,000	570,000	聴覚文化・視覚文化の歴史からみた「1968年」：日本戦後史再考
基盤研究(B)	25284068	藤井省三	1,500,000	450,000	現代東アジア文学史の国際共同研究
基盤研究(B)	25284121	大津透	2,300,000	690,000	律令制の人民支配の総合的研究—日唐宋の比較を中心に—
基盤研究(B)	25285177	山口勲	500,000	150,000	謙遜と自己高揚の普遍性に関する13ヶ国比較研究。脳生理学的基盤の検討を含めて
基盤研究(B)	26284002	一瀬正樹	1,100,000	330,000	被害・リスク・合理性をめぐる記述性／規範性の交差を通じた災害復興のための哲学構築
基盤研究(B)	26284011	鶴岡真雄	1,300,000	390,000	ポスト・セキュラー状況における宗教研究
基盤研究(B)	26284023	秋山聰	1,600,000	480,000	宮廷と美術に関する比較美術史学的研究
基盤研究(B)	26284030	小林真理	1,400,000	420,000	地域文化政策領域における「新しい公共」の担い手と環境整備
基盤研究(B)	26284056	大西克也	1,500,000	450,000	概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開—構文と文法範疇の相関的変遷の解明
基盤研究(B)	26284113	勝田俊輔	900,000	270,000	コスモポリタニズムと秩序形成—ブリテン世界における近代的イシュー
基盤研究(B)	26285107	松本三和夫	900,000	270,000	構造主義における不作為が緊急時に発現するメカニズムの科学社会学的研究
基盤研究(B)	26285163	高野謙太郎	1,700,000	510,000	外国語力と外国語副作用の関係—外国語力が等しければ思考力の低下量も等しいか？
基盤研究(B)	26285164	横澤一彦	1,800,000	540,000	統合的認知としての共感と感覚間協応に関する認知心理学的研究

平成 27(2015)年度

【補助金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成27年度 直接経費	平成27年度 間接経費	研究課題名
特別推進研究	25000001	白波瀬佐和子	71,800,000	21,540,000	少子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合的研究
新学術領域研究(研究領域提案型)	25118004	亀田達也	11,500,000	3,450,000	ト社会における共感性
新学術領域研究(研究領域提案型)	25119003	村上郁也	11,000,000	3,300,000	こころの時間長・同期・クロックを作り出す認知メカニズムの解明
基盤研究(S)	23222001	齊藤明	13,300,000	3,990,000	仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集(ハワード・グーシャ)の構築
基盤研究(S)	15H05725	下田正弘	9,900,000	2,970,000	仏教学新知識基盤の構築—次世代人文学の先進的モデルの提示
基盤研究(A)	23251014	大貫静夫	7,400,000	2,220,000	環日本海北回廊の考古学的研究
基盤研究(A)	25243002	沼野亮義	4,800,000	1,440,000	境域と変容—グローバル化時代におけるスラヴ・ユーラシア研究の超越的枠組みを求めて
基盤研究(A)	25244036	設楽博己	6,600,000	1,980,000	植物・土器・人骨の分析を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究
基盤研究(A)	25245063	亀田達也	6,600,000	1,980,000	集合知の認知・生態学的基盤
基盤研究(A)	25257008	市川裕	9,200,000	2,760,000	ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究
基盤研究(A)	26244002	横手裕	4,400,000	1,320,000	宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の調査と研究
基盤研究(A)	15H01861	清水哲郎	6,600,000	1,980,000	臨床倫理検討システムの哲学的見直しと臨床現場・教育現場における展開
基盤研究(A)	15H01878	齋藤希史	9,000,000	2,700,000	東アジア古典学の次世代拠点形成—国際連携による研究と教育の加速
基盤研究(B)	23320061	大橋洋一	2,400,000	720,000	トランスアトランティックな視座からの「アメリカ文学」概念の成立と変容
基盤研究(B)	23320166	熊木俊朗	2,500,000	750,000	徳文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動
基盤研究(B)	15H03230	島田竜登	4,200,000	1,260,000	近世アジアと砂糖の世界史：砂糖の生産・国際流通・消費文化に関する国際共同研究
基盤研究(B)	15H03250	水島司	6,400,000	1,920,000	インド都市史の研究
基盤研究(B)	15H03261	佐藤宏之	4,700,000	1,410,000	現生人類文化の出現と拡散に果たしたアジア南回リートの意義に関する考古学的研究
基盤研究(B)	15H05152	林敏	4,600,000	1,380,000	学校を通して見る移民コミュニティの多言語使用と言語意識
研究活動スタート支援	26884009	桑原俊介	1,000,000	300,000	バウムガルテンの美学における蓋然性と真実らしさ
研究活動スタート支援	26884011	吉田俊一郎	1,000,000	300,000	帝政期ローマの修葺学校における模範弁論と教育
研究活動スタート支援	26884015	村上正和	1,000,000	300,000	清代の職業従事者と警察機能
研究活動スタート支援	26884016	大塚修	1,000,000	300,000	イラン概念再考—イルハーン朝末期の地方政権と古代ペルシアの記憶—
研究活動スタート支援	26885019	綿村英一郎	1,000,000	300,000	裁判員の量刑判断におけるアンカリング効果についての実験的検討

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成27年度 直接経費	平成27年度 間接経費	研究課題名
基盤研究(B)	26300016	河村英和	800,000	240,000	カンバーニア州・ナポリに16世紀～20世紀に存在した宿泊施設・ホテル群について
基盤研究(C)	25370452	上野善道	900,000	270,000	日本語危機方言アクセントの再調査による研究の深化
基盤研究(C)	24520050	高橋晃一	800,000	240,000	臨海行旅における、空・無我の思想と利他性・衆生救済の関連に関する考察
基盤研究(C)	24520101	小田部胤久	1,000,000	300,000	感性の理論史—美学(史)の再構築のために
基盤研究(C)	25370011	頼住光子	600,000	180,000	大乗仏教思想史における道元思想の意義の解明
基盤研究(C)	25370044	Muller Albert	1,000,000	300,000	Contextual Chinese-English Dictionary of the Thirteen Classics
基盤研究(C)	25370160	平野恵美子	400,000	120,000	ジャンル・ヌーヴォーとしてのインド舞踊とロシア・バレエの出会い—多元主義の芸術
基盤研究(C)	25370209	長島弘明	1,100,000	330,000	『古扶橋』の総合的研究
基盤研究(C)	25370338	野崎敏	1,200,000	360,000	フランス・ロマン主義における「作者」像の成立と変容をめぐる総合的研究
基盤研究(C)	25370340	大宮聡一郎	600,000	180,000	情動と技術の人間学的考察(ドイツ文学の場合)
基盤研究(C)	25370341	塚本昌則	1,300,000	390,000	近代フランス文学における散文の研究
基盤研究(C)	25370510	月本雅幸	900,000	270,000	大日経疏の古訓点についての日本語学的研究
基盤研究(C)	25370764	吉田伸之	1,200,000	360,000	近世世川宿村の分節的な社会—空間構造に関する基礎的研究
基盤研究(C)	26380040	姫岡とし子	1,300,000	390,000	近代ドイツのナショナリズムと女性の政治化—植民地問題を中心として
基盤研究(C)	26370052	加藤弘二郎	800,000	240,000	『解深密経』におけるツェルハ・テンパマ両系統のテキスト比較分析
基盤研究(C)	26370053	大島智晴	1,100,000	330,000	ヴェダ文獻の権利解明に表れる死生観の研究
基盤研究(C)	26370064	西村明	1,100,000	330,000	ポスト九学会連合調査の宗教学的的意義研究
基盤研究(C)	26370272	Stephen Clark	400,000	120,000	Romantic Connections : Locating European Romanticism in a Global Context
基盤研究(C)	26370353	Marianne Simon-Oikawa	1,200,000	360,000	16世紀から21世紀までのフランスにおける視覚詩の総合的な研究
基盤研究(C)	26370378	平野嘉彦	1,100,000	330,000	パウル・ツェラーンの抒情詩—人間学と自然史のはざまに
基盤研究(C)	26370475	小林正人	700,000	210,000	南アジアの山岳少数民族における文法の複雑化
基盤研究(C)	26370528	肥田周二	800,000	240,000	訓点資料を利用した日本語音韻構造史の研究
基盤研究(C)	26370818	吉澤誠一郎	1,300,000	390,000	20世紀初頭の中国における帝制と共和制の論理
基盤研究(C)	26370850	橋場弦	1,400,000	420,000	古代ギリシアにおける和解と調停の比較文化史的研究
基盤研究(C)	26380644	祐成保志	1,400,000	420,000	ハウジングの社会学における基本問題の方法史的検討
基盤研究(C)	15K02039	加藤隆彦	1,100,000	330,000	『バグヴァッドギーター』パースカラ註解)テキスト校訂研究
基盤研究(C)	15K02070	菊地達也	1,100,000	330,000	アラウー派主要教義と宗派対立に関する思想史的研究
基盤研究(C)	15K02071	高久恭子(中西)	600,000	180,000	「背教者」ユリアヌス像の形成とその変容
基盤研究(C)	15K02134	高岸輝	1,400,000	420,000	十四世紀やまと絵の包括的把握による日本中世絵画史の再構築
基盤研究(C)	15K02213	渡部泰明	500,000	150,000	『百人一首』の総合的研究
基盤研究(C)	15K02240	安藤宏	600,000	180,000	大宰府直筆資料のデジタル化、オンライン公開に関する基盤整備的研究
基盤研究(C)	15K02292	阿部公彦	700,000	210,000	英語圏および日本語の文学作品におけるポライトネスの機能
基盤研究(C)	15K02406	金澤美知子	1,600,000	480,000	18世紀ロシア文学の「時間」の表象に見る近代市民社会の形成と精神文化の変遷
基盤研究(C)	15K02407	小椋彰	900,000	270,000	戦間期ポーランドの亡命ロシアに関する研究
基盤研究(C)	15K02408	柳原孝教	700,000	210,000	大西洋往還知識人ネットワークの形成とスペイン語圏文化地図の変化についての研究
基盤研究(C)	15K02504	福井玲	600,000	180,000	小倉進平による朝鮮語方言資料の言語地図化と言語地図作成ソフトウェアの開発
基盤研究(C)	15K02505	三谷恵子	1,100,000	330,000	多言語空間ポニアの言語状況の解明
基盤研究(C)	15K02591	渡邊明	200,000	60,000	日英語の程度表現の統語構造と意味
基盤研究(C)	15K02931	高山博	1,400,000	420,000	中センテリアにおけるルマン王支配下の農民の研究
基盤研究(C)	15K02932	池田嘉郎	800,000	240,000	第一次大戦期・革命期ロシアにおける立憲体制の崩壊とリベラル
基盤研究(C)	15K03033	本田洋	1,300,000	390,000	生き方の分化・再編と交渉に関する対照民族誌的研究：韓国社会の事例を中心に
基盤研究(C)	15K03098	武川正吾	2,400,000	720,000	福祉意識の構造と変容に関する比較福祉レシーム的研究
基盤研究(C)	15K04024	村本由紀子	700,000	210,000	自他の認知の連続性と境界に関する多面的検討
挑戦的萌芽研究	25580162	桜井万里子	800,000	240,000	デルヴェニ・パピルスの解説・翻訳—古代ギリシアにおける多神教と一神教の関係
挑戦的萌芽研究	26580001	関根清三	1,400,000	420,000	論理と宗教の相克と協働—ヘブライズム・ヘレニズムの交錯をめぐる比較研究
挑戦的萌芽研究	26580002	高山守	1,400,000	420,000	手話言語における哲学表現の可能性について
挑戦的萌芽研究	15K13112	唐沢かおり	800,000	240,000	集団心の可能性・妥当性・限界：機能主義的視点からのアプローチ

若手研究(B)	24720321	五十嵐大介	900,000	270,000	中世エジプトのイスラーム審判制度に見る黒死病(ペスト)の影響
若手研究(B)	25770076	神田祥子	900,000	270,000	夏目漱石初期・中期作品における表現の視覚性
若手研究(B)	25770126	中野幸男	300,000	90,000	亡命ロシア文学の帰還とその受容—ディアスポラ・トラウマ・視覚文化
若手研究(B)	25770254	河原弥生	800,000	240,000	18-20世紀中央アジアにおけるナクシュバンディー教団改革派の発展に関する研究
若手研究(B)	26770003	松浦和也	1,200,000	360,000	ギリシア自然哲学の展開とペリパス派の受容
若手研究(B)	26770005	渡辺一弘	500,000	150,000	徳認識論と徳倫理学:「徳(virtue)」概念のヒュームの再構成
若手研究(B)	26770026	江川純一	900,000	270,000	イタリア宗教学派の宗教理解に関する体系的な研究
若手研究(B)	26770032	新田昌英	1,000,000	300,000	近代フランスの感情研究
若手研究(B)	26770064	亀田真澄	500,000	150,000	宇宙飛行のテレビイメージ—1960年代のソ連における生中継プロパガンダ
若手研究(B)	26770117	内藤真奈	700,000	210,000	欧米文学における社会的文化的観点から見たエイズ表象形成の研究
若手研究(B)	26780412	新美亮輔	600,000	180,000	手の視覚的認知の研究
若手研究(B)	26870160	片岡大右	300,000	90,000	ヨーロッパ理念とその政治的・社会的反響——ロマン主義、欧州統合、レイシズム
若手研究(B)	15K16577	千葉悠志	1,100,000	330,000	中東におけるソフト・パワーの構築とメディアの役割に関する実証的研究
若手研究(B)	15K16637	橋爪恵子	500,000	150,000	触覚をめぐる美術史に向けて——G・バジューールの芸術論を中心に——
若手研究(B)	15K16659	柳沢史明	500,000	150,000	アフリカ美術におけるキリスト教的図像:フランス人宣教師から見た彫刻表現
若手研究(B)	15K16696	Lawrence Williams	600,000	180,000	Chained Islands: Cross-Cultural Interactions Between Britain and Japan, 1660-1853
若手研究(B)	15K16710	安達大輔	600,000	180,000	19世紀ロシア文学における言語と身振りの関係についての総合的研究
若手研究(B)	15K16843	小川道大	1,000,000	300,000	19世紀中葉の交通網整備によるインド西部の町ネットワークの变化
若手研究(B)	15K16856	藤崎道	900,000	270,000	都市ローマ及び教皇権支配の観点に基づく中世皇庁研究
若手研究(B)	15K16867	國木田大	800,000	240,000	本州島東北部における弥生・縄文時代以降の食性復元
若手研究(B)	15K16868	久保田慎二	500,000	150,000	墓からみた先商文化の社会構造研究

【一部基金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成27年度 直接経費	平成27年度 間接経費	研究課題名
基金研究(B)	24330208	佐藤隆夫	1,400,000	420,000	誘導色残像現象の総合的な検討—残像に皮質は関与するか—
基金研究(B)	25284036	渡辺裕	1,900,000	570,000	聴覚文化・視覚文化の歴史からみた「1968年」:日本戦後史再考
基金研究(B)	25284066	藤井省三	1,200,000	360,000	現代東アジア文学史の国際共同研究
基金研究(B)	25284121	大津透	2,900,000	870,000	律令制の人民支配の総合的研究—日唐法令の比較を中心に—
基金研究(B)	26284002	一ノ瀬正樹	1,600,000	480,000	被害・リスク・合理性をめぐる記述性/規範性の交差を通じた災害復興のための哲学構築
基金研究(B)	26284011	鶴岡賢雄	2,600,000	780,000	ポスト・セкуляр状況における宗教研究
基金研究(B)	26284023	秋山聰	2,900,000	870,000	宮廷と美術に関する比較美術史学的研究
基金研究(B)	26284030	小林真理	1,900,000	570,000	地域文化政策領域における「新しい公共」の担い手と環境整備
基金研究(B)	26284056	大西克也	2,000,000	600,000	概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開—構文と文法範疇の相関的変遷の解明
基金研究(B)	26284113	勝田俊輔	2,000,000	600,000	コスモポリタニズムと秩序形成——ブリティッシュ世界における近代的イシュー——
基金研究(B)	26285107	松本三和夫	400,000	120,000	構造主義における不作為が緊急時に発現するメカニズムの科学的社会的な研究
基金研究(B)	26285163	高野陽太郎	3,100,000	930,000	外国語力と外国語副作用の関係—外国語力が等しければ思考力の低下量も等しいか？
基金研究(B)	26285164	横澤一彦	2,000,000	600,000	統合的認知としての共感覚と感覚間協応に関する認知心理学的研究

(2) 奨学寄附金

平成26(2014)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
清水 哲郎	住友生命保険相互会社	1,000,000	「医療における意思決定モデルの構築—自立とQOLの考察に基づく臨床倫理的研究」のため
藤井 省三	トレンドマイクロ株式会社	2,000,000	日台文化交流を中心とする現代東アジア文化研究を助成するため
唐沢 かおり	New Jersey Stephen Stich	10,000ドル	Intellectual Humility and Cultural Diversity in Philosophy
六反田 豊	公益財団法人 住友財団	800,000	東京大学 コリア・コロキウム事業に対する助成
山口 勲	公益財団法人 サントリー文化財団	1,000,000	【若手研究者のためのチャレンジ研究助成 「なぜ日本の若い世代の人たちは他者に援助を求めようとならないのか？ 社会間・世代間比較を通じた分析」に対する助成】の機関経理のため
武川 正吾	公益財団法人 生命保険文化センター	470,000	「平成26年度生命保険に関する研究助成」の機関経理のため
藁輪 顕量	公益財団法人 三島海雲記念財団	700,000	「三島海雲学術研究奨励金」の機関経理のため
村本 由紀子	公益財団法人 三菱財団	1,100,000	「平成26年度三菱財団助成金」の機関経理のため
下田 正弘	公益財団法人 全日本仏教会	20,000,000	大蔵経データベース事業および関連事業支援のため
藁輪 顕量	The Robert H.N.Ho Family Foundation Program in Buddhist Studies	55,000ドル	Licha Kigensan Stephan (外国人研究員)の生活支援のため
水島 司	ザルツブルグ大学	2,500ユーロ	空間的シチズンシップ研究助成金
池田 嘉郎	公益財団法人 三菱財団	2,500,000	「平成26年度三菱財団助成金」の機関経理のため
菊地 達也	公益財団法人 サントリー文化財団	2,000,000	学術研究助成(機関経理のため)
松本 三和夫	公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団	600,000	学術研究助成(機関経理のため)
武川 正吾	公益財団法人 明治安田こころの健康財団	500,000	平成26年度公益財団法人明治安田こころの健康財団にかかわる研究助成 (機関経理のため) 「単身認知症高齢者の地域生活において成年後見制度の利用が果たす機能」
下田 正弘	一般財団法人 人文情報学研究所	3,300,000	人文情報学を踏まえた人文社会学研究ならびに次世代大蔵経研究のため
武川 正吾	公益財団法人ひと・健康・未来研究財団	500,000	「平成26年度 公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団による研究助成」について
藁輪 顕量	公益財団法人 克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成についての機関経理のため
長島 弘明	株式会社 雄松堂書店	110,645	「国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究」に対する助成についての機関経理のため
村本 由紀子	一般財団法人 司法協会	500,000	「死刑制度に対する一般市民の意識および将来的変化に関する心理学的研究」に対する助成についての機関経理のため
小佐野 重利	株式会社 TBSテレビ	2,500,000	イタリア美術を中心とする西洋美術史の研究と公開推進のための寄附についての機関経理のため
本田 洋	公益財団法人韓昌祐・哲文化財団	1,000,000	「韓国の地域社会における帰農・帰村現象に関する社会人類学的研究：地域社会の再活性化との関連を中心に」に対する助成についての機関経理のため

平成27(2015)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
下田 正弘	公益財団法人たばこ総合研究センター	750,000	「上座部仏教僧侶の喫煙」に対する研究助成についての機関経理のため
池澤 優	住友生命保険相互会社	1,000,000	「医療における意思決定モデルの構築—自立とQOLの考察に基づく臨床倫理的研究」に対する研究助成についての機関経理のため
六反田 豊	公益財団法人住友財団	800,000	「東京大学コリア・コロキウム事業」に対する助成についての機関経理のため
小島 毅	公益財団法人 楠水軒記念文化振興財団	100,000	祐キャンパスにおける「後期教養科目」への支援についての機関経理のため
下田 正弘	一般財団法人 人文情報学研究所	3,300,000	人文情報学を踏まえた人文社会学研究ならびに次世代大蔵経研究のため
佐川 英治	公益財団法人 村田学術振興財団	500,000	「都城の設計からみた東アジア文化の研究」についての機関経理のため
藁輪 顕量	The Robert H.N.Ho Family Foundation Program in Buddhist Studies	55,000ドル	Licha Kigensan Stephan (外国人研究員)の生活支援のため
藤崎 衛	公益財団法人 三菱財団	1,100,000	「平成27年度三菱財団助成金」の機関経理のため
綿村 英一郎	法と心理学会	60,000	「法と心理学会における研究の量的・質的向上をめざして」に対する助成についての機関経理のため
小田部 胤久	公益財団法人 三菱財団	800,000	「フランス人宣教師から見たアフリカ彫刻：リヨン美術館所蔵アーカイブを中心に」に対する助成についての機関経理のため
下田 正弘	公益財団法人 全日本仏教会	15,000,000	大蔵経データベース事業に関連する人文社会学研究活動支援のため
小野 泰教	法と心理学会	300,000	「法と心理学会における研究の量的・質的向上をめざして」に対する助成についての機関経理のため

5. 教育・研究支援組織

(1) 図書室

■蔵書数（平成28年3月末現在）

図書	1,123,133 冊	（うち洋書 579,094 冊）
年間受入図書冊数	12,957 冊	（うち洋書 6,118 冊）（平成27年度）
所蔵雑誌種数	13,879 種	（うち洋雑誌 4,558 種）
年間受入雑誌種数	1,532 種	（うち洋雑誌 937 種）（平成27年度）

■図書資料の蔵置

現在、文学部の蔵書は図書委員会の管理・運営の下で、以下の書庫や研究室に分散配架しているが、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。この問題を解決するために、図書委員会では新図書館（アカデミック・プラザ）構想に対応して、図書資料の再配置計画を検討中である。

1) 法文2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991年度～）博士論文（課程博士）、マイクロ資料を配架。

2) 文学部3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料を配架。

3) 貴重書庫（法文2号館書庫内）

インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・美学芸術学・日本史学・西洋史学・東洋史学・言語学・国語学・国文学・心理学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消された。また、保存環境についても、定期清掃の実施や温湿度管理の徹底、防虫剤の定期交換等により、大幅に改善されつつある。

4) 各研究室

研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・文学部3号館・総合研究棟（弥生地区）・アネックス（浅野地区）・赤門総合研究棟の各研究室に配架。

5) 法文1号館書庫

各研究室の稀用図書、考古学関係の発掘調査書等を配架。

6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・日本史学・東洋史学・西洋史学・国語学・国文学・中国語中国文学・インド語インド文学・スラヴ語スラヴ文学の各研究室及び次世代人文開発センターのマイクロ資料を配架。

■サービス体制

1) 文学部3号館図書室

総合受付サービス窓口で、貸出・文献複写・現物貸借依頼受付、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時（短縮期間中は午前9時～午後5時）、土曜の午前10時～午後6時（短縮期間中は閉室）。OPAC用パソコン4台、デジタル資料閲覧用パソコン1台、コピー機2台を設置。

2) 法文2号館図書室

主として、法文2号館図書室に配架された雑誌・博士論文・マイクロ資料の閲覧・複写・貸出サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後5時。OPAC用パソコン3台、コピー機2台、マイクロリーダープリンタ2台を設置。個人閲覧席11席を整備したキャレルコーナーがある。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

■最近の利用状況

	平成26年度	平成27年度
・入館者数	28,504 人	27,064 人
・貸出冊数	14,854 冊	16,849 冊
・文献複写	163,430 枚	139,721 枚
・参考業務	4,966 件	4,266 件
・相互協力	3,107 件	3,051 件

(2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部の各研究室が所蔵する「漢籍」（中国前近代資料）を集中配架・共同利用するために、1967（昭和42）年法文2号館2階に設置された（利用開始は1970年）。2004年2月に赤門総合研究棟6階に移転し、現在に至る。中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室が所有・購入する漢籍（一部日本・朝鮮関係資料などを含む）を受け入れており、孤本・稀覯本など多数の貴重な資料や、小倉文庫（朝鮮語資料・朝鮮漢籍）・瀧田文庫（日本禅籍）といったコレクションを合わせると、10万冊を超える書籍を所蔵している。

漢籍を伝統的な四部分類法で配架した「書庫」、貴重書を保管する「貴重書庫」、および参考図書・利用者用PC・印刷機等を備えた「閲覧室」で構成されている。主に本学部の中国学専攻者に研究・教育・学習の場として活用されているほか、漢籍は様々な学問分野においても研究資料となるため、他学科・他部局・学外の学生や研究者にも利用されている。とりわけ近年、所蔵データの遡及入力が集中的に進められ、2014年度末には一部の貴重書を除くほぼ全ての所蔵図書がOPACに登録されたため、学内のみならず学外からも利用の便が増し、利用者数も増加傾向にある。

運営・管理は中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室の代表教員などで構成される「漢籍コーナー運営委員会」が行い、業務全般は教務補佐員が担当している。

2014～15年度も継続的に図書を受け入れ、関連研究室の購入図書や科研費購入図書を中心に年1,000冊程度のペースで蔵書が増えているほか、既存の蔵書についても、文学部の支援を得て損傷の激しい図書の補修を継続することができた。特に明版・清版といった貴重書の修繕を優先することで、古書の保存状況は徐々に改善しており、貴重書保存の観点からも着実な進展が見られた。また2015年度は、韓国の高麗大学と協定を結び、貴重書を多く含む朝鮮本コレクションである小倉文庫のうち117点のデジタル化を行った。小倉文庫は国内のみならず、海外の研究者にも注目されており、近年特に閲覧申請が増加している。デジタル化された画像データは高麗大学側で公開が進められているほか、漢籍コーナーでも利用者の便に供するための検討が進められている。

これほどの量と質を備えた漢籍専門図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統を継承しつつアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの施設である。今後も引き続き文学部の研究教育拠点として漢籍コーナーの整備・充実に努めていきたい。近年は出版数の増加や電子資料の普及など「漢籍」をとりまく状況も変化しており、漢籍コーナーも外部利用者の増加や、デジタルデータの扱いなどに対する対応が求められている。したがって今後の課題は、漢籍を資産として管理・保全しながらも、資源として多様な学問分野の研究・教育に活用していくという、二つの責務をバランスよく果たしていくことにあるだろう。

(3) 国際交流室

2015年度、人文社会系研究科における外国人留学生数は165名であり、前掲の「国又は地域別外国人留学生数」に示したように、過去5年間、総数は160名前後で推移している。同様に、国・地域別においても顕著な増減は見られない。

2015年度における国・地域別では、中国が71名と最も多く、次いで韓国61名、台湾11名となっている。これにより、中国が全体の約43%、韓国が約37%を占めていることが分かる。更に、アジア諸国が147名に上っていることから、同研究科の外国人留学生の9割近くをアジア出身者が占めていることが明らかとなった。

一方、外国人研究員は、2015年度は過去5年間において最多の50名を受入れており、これは2011年度の約2倍に相当する。前掲の「外国人研究員（国籍別人数）」によれば、国・地域別で2011年度と2015年度を比較すると、中国が6名から16名へ、アメリカ合衆国が2名から10名へと大幅に増加しており、且つ、2011年度は受入れのなかったポーランドが2015年度には受入数第3位の5名へと増加している点も特筆に値する。

国際交流室は、これら200名以上に上る外国人留学生及び外国人研究員の受入、支援を行っており、日本語教育担当教授1名、同非常勤講師3名、留学生教育担当講師1名、事務補佐員2名により構成されている。

[国際交流室日本語教室の活動]

大学院人文社会系研究科・文学部に所属する外国人留学生の日本語教育および学習・研究の支援に関する業務をおこなっている。具体的には、日本語補講科目の開講、日本語の個人指導、各種行事の実施などである。

日本語科目は主に研究生や特別聴講学生・特別研究学生（中級以上）を対象として、大学院入学前の日本語能力強化が大きな目的となっている。各 semester 週10コマ開講するほか、夏と春の長期休暇中に集中講座も行っている。2014年度冬学期から大学院科目「日本語アカデミック・ライティング」が新たに開講されたことを受け、日本語教室の科目の構成・内容を見直し、2015年度より、アカデミックな日本語が学べる科目に力点を置くようにした。加えて、これまで少なかった院生の受講も促進するため、ゼミでの発表・議論に役立つ科目も開講した。

このような科目は本郷キャンパスでは本研究科でしか開講されていないため、2015年度から、他研究科・学部にも所属する留学生にも積極的に開放することにしたところ、理系文系を問わず、多様な分野からの受講生が集まった。この試みにより、授業に活気が生まれ、本研究科・学部の留学生の受講者数を増やすこととなった。

セメスターごとの受講者数は、2014年度の夏学期29人、夏季集中講座11人、冬学期は40人であった。2015年度のSセメスターは32人、夏季集中講座は28人、Aセメスターは60人、春季集中講座は28人であった。

個人指導は、論文や発表原稿、申請書の日本語指導や授業で実施したことのフィードバックなどが主で、年間50回程度行っている。

各種行事は、2015年度Aセメスターから開始したもので、毎週水曜日に「ランチの会」、年末に「お雑煮会」を実施した。留学生の多くは日本人とだけでなく、留学生同士の交流さえ持てないまま学習・研究を進めている。そのため、ストレスや悩み解消の場がなく、体調を壊して授業を休む者も少なくない。各種行事はこういった学業に専念できない状況を、留学生同士や日本人との交流によって緩和するために行っている。

教授 **向井 留実子** MUKAI, Rumiko

29 次世代人文学開発センター〈先端構想部門〉 参照

講師 **寺田 徳子** TERADA, Noriko

1. 略歴

- 1972年3月 立教大学文学部史学科卒業
- 1978年 朝日カルチャーセンター日本語講師養成講座修了
- 1980年 日本語教育学会日本語講師養成講座修了
- 1980年4月 日本語教育学会日本語講師養成講座教務担当 ～1981年3月
- 1980年9月 国際学友会日本語学校非常勤講師 ～1983年9月
- 1980年10月 拓殖大学語学センター日本語コース非常勤講師 ～1983年9月
- 1983年10月 マドラス大学印日センター客員教授（国際交流基金より派遣） ～1986年6月
- 1986年8月 アジア学生文化協会留学生日本語コース非常勤講師 ～1989年3月
- 1986年9月 外務省アジア太平洋地域外交官日本語研修計画非常勤講師 ～1989年7月
- 1989年4月 大東文化大学別科非常勤講師 ～1992年3月
- 1989年9月 国際交流基金日本語国際センター外交官コース非常勤講師 ～1997年6月
- 1992年4月 東京大学文学部・人文社会系研究科講師
- 2015年3月 退職

2. 主な研究活動

主要業績

著書 『しっかり学ぼう日本語基礎』 山下暁美氏と共著・双文社 467頁 1997

3. 主な教育活動

(1) 日本語教育に関する業務一般

- 1) 日本語授業の授業計画の作成
各学期の授業及び集中授業の計画を作成する。非常勤講師と話し合い、必要に応じて科目や内容を決定する。
- 2) 新規外国人留学生への学力試験の実施
当研究科の外国人研究生の日本語力をはかるため、当日本語教室独自の試験を実施している。
- 3) 個人指導
留学生として当研究科・学部には在籍している学生は誰でも利用できる。学生の要望に応じて予約制で受け付けるが、取り扱う内容は、日本語に関する質問から、ゼミ発表の練習、レポート・論文の添削まで様々である。利用者は正規の大学院生が多い。

4) 作文集の作成

年度末に一年間の日本語教室で書かれた作文・小論文および投稿作品をもとに、作文集『ぎんなん』を発行している。以前は学期ごとの発行であったため、最新号は28号である。

5) 講師会の開催

日本語の授業では、それぞれの授業の担当者の連携が大切であるため、定期的に非常勤講師と話し合う講師会を開き、そこで話し合ったことを授業計画に生かすようにしている。

6) その他

日本語教室の所有する図書・教材等の貸し出し。日本語学習に関するアドバイス等。

(2) 日本語授業

1) 通常授業

2014年に担当した科目は以下の通りである。特に期間が限定されたものは[]に記した。レベルを設定した科目が多いが、専門科目と並行して受講する学生のために柔軟な対応を心がけている。

- ① 読解Ⅰ(中級)： 初級知識の定着と中級読解能力の養成を目的とする。書き言葉の語彙や文型の定着も図る。
- ② 読解Ⅱ(上級)： より長い文章の内容や要点を把握させる。また、読みのスピードアップも図る。
- ③ 文章表現Ⅰ(中級)： 作文の基本的な知識と、研究に役立つ文章の書き方を指導する。
- ④ 文章表現Ⅱ(上級)： 論文・レポート等、アカデミックライティングの指導を行う。
- ⑤ 漢字学習Ⅰ・Ⅱ(中級～上級)： 非漢字圏の学生はもとより漢字圏の学生も対象とし、日本語としての漢字の読み書き、漢字語彙の使い方等を定着させる。
- ⑥ 口頭表現B [夏学期のみ]： 日本語によるプレゼンテーション能力の向上をめざす。
- ⑦ 読解Ⅳ [冬学期のみ]： 外国人研究生の大半が大学院への進学をめざしていることから、受験のための読解練習を行う。

2) 夏期集中授業

夏休みに開講した5～6科目のうち、担当した科目について記す。

2014年度

- ① 文法と文型： 日本文でよく使われる文型の意味と使い方、留学生の苦手とする文法事項を具体的に指導。
- ② 文章表現： わかりやすさ、文章の流れを意識した文章の書き方を指導。

◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

講師 **安田 京子** YASUDA, Kyoko

1. 略歴

1978年3月	早稲田大学法学部卒業
1981年6月	ハーバード・ロー・スクールLL.M.コース修了
1991年2月～1994年3月	東京大学留学生センター留学生相談室非常勤相談員
1996年4月～1997年3月	東京大学文学部国際交流室教務補佐員
1997年4月	東京大学文学部講師(外国人留学生アドバイザー)
2016年3月	退職

2. 主な教育活動

(1) 留学生等相談関係

1) 勉学関係

大学院進学に関する相談、休学に関する相談、入学希望者の来室・電話・手紙・e-mail等による相談、教員からの大学院研究生及び外国人研究員受け入れに関する相談、国費留学生の転科、帰国に関する相談、等。

2) 生活関係

奨学金に関する相談、授業料納入に関する相談、宿舎に関する相談、ビザ取得及びビザ変更に関する相談、精神的問題に関する相談及び専門家へのリファー、等。

(2) 教務関係

1) 留学生全般関係

外国人留学生名簿作成、奨学金申請の取りまとめ、各種留学生用宿舎の入居申請の取りまとめ、大学宿舎オンライン申請のチェック、見学旅行・懇親会の通知発送及び参加申し込みの取りまとめ、等。

2) 大学院外国人研究生関係

入学願書配布及び受け付け、審査結果通知発送、入学手続き（4月及び10月）、入学ガイダンスの実施（4月及び10月）、研究期間延長手続き、研究事項証明書発行、チューターの選定依頼及びその取りまとめ、等。

3) 国費留学生関係

大学推薦・国内採用による国費留学生の申請手続き、各種手続き、等。

4) 外国人研究員関係

外国人研究員の申請受け付け・許可証明書及び身分証明書の発行、研究者用宿舎のオンライン入居申請のチェック、等。

(3) その他

外国人留学生・外国人研究員との懇親会（6月）、外国人留学生見学旅行の引率（11月）、国費外国人留学生、交流協会奨学金留学生、文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者の在籍簿取りまとめ（毎月）、東京大学外国人留学生特別奨学制度受給者の在籍確認取りまとめ（4月、7月、10月及び1月）、留学生の在留資格認定証明書交付申請用紙の配布、申請書類作成及び取りまとめ、在留資格期間更新手続関係書類の作成、大学院人文社会系研究科外国人研究者の在留資格認定証明書交付申請手続き、等。

◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

(4) 教育研究情報管理室

教育研究情報管理室（以下、情報管理室と呼ぶ）は、本研究科・本学部をとりまく以下の状況を踏まえ、2009年度に設置された。

すなわち、大学法人化に伴い中期目標・中期計画書や、その達成度等の評価判断の目安とされる現況調査表・教育研究実績報告書を定期的に作成し提出することが義務づけられた一方、社会からは教育研究に関わる各種情報を公開し、また教育研究内容の広報活動を推進することが強く要請されている。

その要請に応えるために、情報管理室は、特に教育研究に関わる情報・資料等を部局として集積し、かつ電子データとして一括管理し、上記のような報告書・資料の作成作業の効率化を図るとともに、機密性の高い情報を管理する上での高度のセキュリティ対策を構築するように努力している。

なお、情報管理室の設置に伴い、視聴覚教育センターと情報メディア室はその分室となった。

構成員

教育研究情報管理室

室長 木村英樹（中国語中国文学研究室教授）

講師 石川洋

事務補佐員 松原道子

A 視聴覚教育センター

特任専門職員 菅家健一

教務補佐員（2014年度）・特任専門職員（2015年度） 木村京子

事務補佐員 小国浩一

B 情報メディア室

特任助教 西川賀樹（次世代人文学開発センター特任助教）

事務補佐員 堂前香織

講師 **石川 洋** ISHIKAWA, Hiroshi

1. 略歴

1986年3月 東京大学文学部東洋史学専修課程卒業

1986年4月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学

1989年3月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了
1989年4月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学
1994年3月	東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学
1994年4月	東京大学文学部助手
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助手（漢籍コーナー担当）
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科講師（教育研究情報管理室・視聴覚教育センター担当）

2. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、関東学院大学法学部、「教職課程外国史1・2」、2014.4～2016.3

(2) 学会

国内、中国社会文化学会、一般会員、2014.4～2016.3

国内、東方学会、一般会員、2014.4～2016.3

国内、史学会、一般会員、2014.4～2016.3

A 視聴覚教育センター

総合図書館の5階にある文学部視聴覚教育センターは、1964年、図書館の「総合化」の一環として、語学教育と非文字資料の収集・利用を行うことのできる施設の設置・運営が文学部に委託されて発足したものであり、語学教材、言語学資料、映画・古典芸能等の音声・映像資料を作成・収集して全学の利用に供するとともに、本研究科・学部の視聴覚設備の整備、視聴覚機器やPCを必要とする教育・研究のサポート、本研究科で行われるさまざまな講演やシンポジウム等の録画とアーカイブ化を行っている。

2009年4月より視聴覚教育センターは、本研究科・学部の教育研究情報管理室の分室として位置づけられ、これにより教育研究情報管理室・情報メディア室・大学院係・教務係等とより緊密な連携をはかり、本研究科・学部全体の教育研究体制を見渡しながら、視聴覚面で研究・教育に貢献していく環境が整えられた。2010年10月には文学部教授会において、1984年制定の「東京大学文学部附属視聴覚教育センター運営委員会規程」及び当センター利用規定・利用細則が全面的に見直され、新たに「東京大学大学院人文社会系研究科・文学部視聴覚教育センター規則」「同利用規程」「同利用細則」が定められた。センター運営には教員で構成される視聴覚教育センター運営委員会があたっている。業務は3名のセンター職員が担当し、教育研究管理室講師も管理室との兼担で業務にあたっている。

センターには、第1・第2の2教室と、視聴覚資料の視聴ができる自習室、センター職員が執務、作業を行う事務室と編集室が設けられている。

第1、第2教室は各種映像・音響機器を備えており、語学授業の他、映像を活用する美術史学や国文学、美学の授業などで利用されている。また第1教室は40台以上のPCの同時ネットワーク接続が可能であり、受講生がインターネットを使用する授業や講習会などでも利用されている。

センターは開設以来今日まで、10,000点以上の音声・映像資料を収集、蓄積しており、語学教材をも含むこれらの資料は、センターの自習室において、全学の学生・教職員の利用に供している。総合図書館において音声・映像資料を視聴する設備があるのは視聴覚教育センターだけであり、ソフト・ハード両面で、総合図書館におけるAVライブラリー機能を担っている。低廉化しハード、ソフトとも個人での入手が容易になってきているが、映像・音声資料が身近なものになり、研究、教育での利用が拡大してきている状況で、大学・大学図書館でもAVライブラリーは不可欠のものとなっており、その整備・充実に対する要望は高まっている。センターでも、減少していた自習室の利用者数が2009年頃から増加傾向に転じている。今後も研究・教育施設としてのAVライブラリーはいかにあるべきかを考えながら、設備・所蔵資料の一層の整備・充実をはかっていきたい。

センターの管理・運営とならび、センターの重要な業務となっているのが文学部の教室の視聴覚設備の整備・保全管理、視聴覚設備・機器に関わるサポート（教員への技術指導、機器の故障への対応など）である。

文学部の2つの大教室（法文2号館1番大教室・2番大教室）は通常授業の他、学会・シンポジウムの会場としても利用されているが、いずれの視聴覚設備も老朽化、旧式化が著しく、更新が必要となっていた。幸い2014～15年度に本部経費によって視聴覚設備（ICT環境）整備が行えることになり、2014年度に2番大教室、2015年度に1番大教室で、制御系・映像系を中心に視聴覚設備の更新を行った。ただ、音響系機器の更新は先送りとなり、今後の課題となっている。法文1号館の教室では、2013年度から2014年度にかけて216、314、317、319、310番教室に天吊りプロジェクターを設置するなどの設備改修を行い、117番教室にはディスプレイ等の機器一式を設置した。2015年度には116

番教室にディスプレイ等の機器一式を設置したほか、本部経費により法文1号館9教室、赤門総合研究棟3教室分のプロジェクターを調達し、これにより、法文1・2号館の全教室にプロジェクター、もしくはディスプレイが常設されることになった。文学部では早くから教室への視聴覚機器の導入を進めてきたが、それだけに以後の設備整備が（予算の都合もあり）部分的、継ぎ足し的になり、設備としての統一性に欠け、使い勝手も悪くなってしまっていた。この点はここ数年の改修でかなり改善されてきたが、授業・学会等でのPC・AV機器の使用が一般化し、加えてPC・AV機器の変化がめまぐるしいこともあって、教員・学生からは視聴覚設備に対して様々な要望・要求が出されている。引き続き、教員・学生の利用状況や要望を把握し、限られた予算を有効に活用し、計画的に視聴覚設備の更新・整備を進めていく必要がある。

センターでは、文学部で行われるさまざまな講演やシンポジウム、退職教授の最終講義等の録画も行っており、2014～2015年度には、文学部公開講座、ホームカミング日文学部企画講演会、布施学術基金公開講演会、集英社講座、オープンキャンパスでの模擬講義、最終講義、ノーベル文学賞受賞者ルークレジオ氏講演会などの撮影を行った。ただ、人手不足もあり、これらの貴重な映像資料の整理・アーカイブ化はなかなか進んでいないのが現状である。また、現在一部のビデオは東大TVで公開しているが、著作権・肖像権等の問題もあり、こうした貴重な映像資料をどのように活用していくかは今後の検討課題となっている。

なお、現在総合図書館では、「新図書館計画」のもと全面的な改修・リニューアルが進められており、この「新図書館計画」により、視聴覚教育センターは現在の総合図書館5階から別のフロアに移転することが決定している（移転先、移転時期は未確定）。また本移転とは別に改修工事の関係で2017年夏頃までに仮移転することもほぼ決まっている。近年研究・教育分野での視聴覚機器や視聴覚資料の活用が急速に拡大しており、センターが担う業務や機能の必要性、重要性も大きくなってきている。予定される移転は「新図書館計画」の一環であり、今後のセンターのあり方も「新図書館計画」によって決まってくるという面があるのは致し方ないが、センターとしても、移転という大きな変化を前に——ある意味、それを一つの機会として——センターが今後いかなる業務や機能を担い、果たしていくべきなのか、またセンターはいかにあるべきかをあらためて検討しているところである。

B 情報メディア室

MAIL : l_cnc@lu-tokyo.ac.jp

WEB : <http://www.lu-tokyo.ac.jp/MediaCenter/>

情報メディア室は、文学部の計算機システムおよびキャンパスLANの運用管理を行うことを目的として、1996年に設立された。現在、情報メディア室では、次の2つの業務を行っている。

1. 文学部内の情報システムに関する運用管理
2. 多分野交流演習事務局

1. 情報システムの運用管理

情報メディア室は、視聴覚教育センターと協力して、文学部の教育・研究用計算機システム、キャンパスLANシステムの運用管理を行っている。

1) 教育・研究用計算機システムの運用

文学部は、教育研究用計算機システムとして、Sun Ultra WS×1台、HP ProLiant Server×7台、Dell PowerEdge×1台を管理・運用し、文学部・大学院人文社会系研究科構成員に対して、電子メールサービス、ホームページサービスをはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。本システムは、約500ユーザを抱えている。

2) 文学部WWWサーバの運用

情報メディア室では、文学部全体のWWWサーバシステムの運用を行っている。WWWサーバからは、事務局や広報委員会、また個々の各研究室・教員・学生からの発信情報があり、これらに対して共通の情報発信システムを提供している。

3) 文学部LANのNOC (Network Operation Center) 機能

情報メディア室では、文学部のネットワーク運用センター (NOC: Network Operation Center) 機能として、以下の業務を行っている。

- (a) 基幹ネットワークの良好な通信状態の維持
- (b) webmaster/postmaster 機能
- (c) ネームサーバの運用

- (d) DHCPによるIPアドレス自動割当サービス
- (e) 電話アクセスポイントサービス
- (f) SSL-VPN サービス

を行っている。

(a) 基幹ネットワークの運用

情報メディア室では、文学部の構成員が居住する主要な建物である、法文1号館、法文2号館、文学部3号館、農学部総合研究棟、アネックス、赤門総合研究棟におけるローカルエリアネットワークの基幹部分（研究室や教員居室の外部）の管理運用を担当している。これらの建物における、物理的なネットワーク配線、ネットワーク通信を中継するために設置されたハブやスイッチなどの機器を運用管理し、研究室からキャンパス LAN である UTnet までの通信経路における良好な通信サービス提供のための活動を行っている。

(b) webmaster/postmaster 機能

情報メディア室では、広報委員会および事務局と協力し、インターネット上の文学部の問い合わせ、苦情等の窓口業務を行っている。文学部が提供する各種情報に関する問い合わせは、web-master@lu-tokyo.ac.jp 宛に届くことが多い。このメールを、学部内の担当部署への転送、広報委員会への連絡業務を行っている。また、セキュリティ上の問題や、文学部内から外部に向けてなんらかの被害をもたらす動作を行った場合の苦情等は、postmaster@lu-tokyo.ac.jp 宛に届くことが多いが、ここに届いた連絡事項の対応も行っている。

(c) ネームサーバサービス

文学部 LAN が機能するために必要な、ネームサーバ (DNS: Domain Name Server) の運用を行っている。

(d) DHCPによるIPアドレス自動割当サービス

文学部 LAN に接続するコンピュータに対して、IP アドレスの自動割当サービスを、すべての建物において実施している。これによって、コンピュータに明示的なアドレス割当を行わなくとも、文学部 LAN に接続して利用できる利便性を提供している。

(e) 電話アクセスポイントサービス

文学部 LAN に対して、自宅等から電話回線によってアクセスする環境を提供している。現在、ISDN、PHS (PIAFS32, PIAFS64)、56K アナログモデムによるアクセスを提供している。

(f) SSL-VPN サービス

自宅等の学外から文学部 LAN に安全に接続できる SSL-VPN サービスを提供している

4) 文学部 LAN の NIC (Network Information Center) 機能

情報メディア室では、文学部 LAN のネットワーク情報センター (NIC: Network Information Center) 機能として、lu-tokyo.ac.jp 以下のドメイン名割当管理、IP アドレス割当管理を行っている。

5) セキュリティ対応

近年、大学内もインターネット経由による不正アクセス等が多くあり、学部内でも多くの被害がでている。そのため、

- ・文学部のメールサーバにウィルスチェックソフトウェアを導入し運用
- ・文学部 LAN 全体を囲むファイアウォールを設置・運用
- ・各種セキュリティ対策情報を学部内に配布

など、セキュリティ対応業務を行っている。

6) 文学部内の研究活動支援

情報メディア室では、文学部構成員全体への情報サービスだけでなく、文学部の各教員の研究教育活動の支援として、各研究プロジェクトの情報発信支援、研究用コンピュータの運用管理、連絡用のメーリングリストの提供なども積極的に行っている。

7) 文学部内データセンタの運用

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの運用管理を行っている。

8) グループウェアの運用

事務からの情報発信や各研究室・部署で情報共有を行うためにグループウェアの運用管理を行っている。

2. 多分野交流演習事務局

情報メディア室では、多分野交流演習の事務局を担当し、多分野交流演習の予算管理・執行業務、多分野交流演習ニュースレターを定期的に発行している。

3. 助教の活動

特任助教 西川 賀樹 NISHIKAWA, Yoshiki
在職期間 2010年4月～現在
研究領域 オペレーティングシステム・システムソフトウェア

6. 情報化と広報

(1) IT化

人文社会系研究科・文学部の情報化（IT化）は過去2年間着実に進歩した。人文社会系研究科・文学部ホームページを2015年にリニューアルし、卒業生インタビューといった独自コンテンツの追加を行う等、さらなる充実を図っている。引き続きCMS（Content Management System）による管理を行っており、毎年度にCMSを用いた編集方法の講習会を開催して事務局・研究室等からの情報発信を強化している。また、Webサイトを持つ研究室やプロジェクトの数も着実に増え続け、アクセス数は増加の一途をたどっている。

IT化の負の側面としては、迷惑メールやウイルスメールなどの問題があるが、情報メディア室を中心として防御体制を固めており、これまでのところサーバに大きな被害を受けることはなかった。今後、ファイアウォールや迷惑メール対策のさらなる強化といったセキュリティ対策も検討している。また、サーバやネットワーク機器等の更新を定期的に行っており、より高速で安定したITインフラストラクチャの構築を進めている。アクセスポイントについては、全学無線LANサービス（utroam）に加えて大学等教育研究機関で相互利用できるeduroamにも参加し、利用者の利便性を向上させた。

(2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) 多言語化されたホームページによる情報発信、2) 文学部進学者のための『進学ガイダンス』の作成、3) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、4) ホームカミングデイの企画・実行、5) 広報用カレンダーの作成、6) 全学広報委員会との連携などであり、多岐にわたっている。

このような広報活動により、オープンキャンパスやホームカミングデイでは多くの方に参加いただいているが、さらに刊行物の発行やホームページの充実などにより、人文社会系研究科・文学部の活動が在校生、卒業生、一般の方々を問わず、広くご理解頂けるように努力を続けている。特に、ホームページは9言語に対応するように拡充し、人文社会系研究科・文学部が目指す国際化を体現している。

<2014・2015年度オープンキャンパス企画>

2014年度

法文2号館耐震工事中につき、文学部独自の企画は実施していない。

2015年度

参加者数 : 模擬講義 290名、学生による発表 100名、研究室見学ツアー 90名、教員著書展示 530名、個別相談コーナー 100名、総計 1110名（いずれも概数）

- 企 画 : 1. 文学部の概要説明
2. 模擬講義 林 徹（言語学）「外国語の習得はなぜ難しいか？」
阿部 公彦（英語英米文学）「(英文学的) 英語リスニング必勝法」
3. 学生による発表 文学部在学学生「キャンパスの外へ飛び出そう！」
4. 研究室見学ツアー
ツアー ①日本史学研究室、フランス語フランス文学研究室
②フランス語フランス文学研究室、日本史学研究室
③インド哲学仏教学研究室、心理学研究室
④心理学研究室、インド哲学仏教学研究室
5. 教員著書展示、個別相談コーナー

<2014・2015年度ホームカミングデイ企画>

2014年度

- 参加者数 : 講演 60名
企 画 : 1. 講演 ジョルジョ・アミトラノ 日本文学研究者、イタリア文化会館東京館長
「イタリアの鏡に映った日本文学」

2015 年度

参加者数 : 基調報告およびパネルディスカッション 130 名

企 画 : 1. 基調報告 熊野 純彦 文学部長

「時空の近代、人文知の時空——あるいは国家と資本と文化について」

2. パネルディスカッション

橋場 弦 (西洋史学)

齋藤 希史 (中国語中国文学)

唐沢 かおり (社会心理学)

野崎 敏 (司会/フランス語フランス文学)

7. 公開講座

(1) 布施学術基金公開講演会

布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第22回、第23回

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もっとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」という共通テーマで毎年1回開催されている。

第22回は2014年5月22日木曜日午後5時から本学名誉教授(かつ山東大学儒学高等研究員教授)池田知久氏(中国思想文化)をお招きして開催された。「『老子』の形而上学と「自然」思想 — 北大簡を中心として —」というタイトルで講演を頂戴した。『老子』のテキストは写本によって内容に大きな異なりがあり、また「道」を把握した「聖人」は「世界」と「万人」を治めることもできるという考え方があるとのことで、老子の思想も政治学であるという。さらに『老子』の主張で有名な「無為自然」は、「無為」は原因「自然」は結果として理解すべきであることなど、人口に膾炙した理解とはひと味異なった内容を話された。

第23回は2015年5月28日木曜日、午後5時から本学名誉教授辻惟雄氏(美術史学)を講師として招き、「画家—岩佐又兵衛—血まみれな生を受けたウキヨエの先祖」と題して講演を頂戴した。岩佐又部衛(1578-1650)は織田信長の家臣荒木村重の子であり、母親を虐殺され数奇な生涯を送り、後世、浮世絵の先祖と見なされた人物である。その生涯は出自が暗い影を落としているが、その作品は人物表現に特徴が現れており、たくましい肉体、極端な動きを強調する。描かれた顔は豊かなほおと長いあごを持ち、中世の大和絵の画風を彷彿させるが、独自のスタイルとして定着した。この表現が浮世絵の源流と謂われる由縁であることを話された。

(2) 東京大学コリア・コロキウム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもと、2003年度から標記のコロキウムを開催している。本コロキウムは、激動を続ける韓国朝鮮およびこの地域をとりまく北東アジア情勢に対応し、あらたな提案を行ってゆくためには、同地域に関する理解を一層深めることが要請されるとの考えから企画されたものである。このような観点から、当コロキウムでは韓国朝鮮および周辺地域に関わる様々な分野の専門家、外交官、官僚、政治家、研究者、社会活動家などを東京大学に招き、忌憚りの無い意見表明をお願いし、質疑応答を行うことで理解を一層深める機会を社会に向けて創出してゆくことを目的としている。講演は年に数回行っている。講演の内容については、『東京大学コリア・コロキウム講演記録』として年度ごとに発行している。なお、本コロキウムは公益財団法人住友財団の助成事業として運営されている。2014—2015年度の開催の実績は以下のとおりである。

2014 年度

第1回 2014年7月17日(木) 18時30分~20時

講演者 : 須川 英徳 氏 (横浜国立大学教授)

講演題目: 朝鮮時代の貨幣

第2回 2014年10月2日(木) 18時30分~20時

講演者 : 崔 吉城 氏 (東亜大学教授・広島大学名誉教授)

講演題目: 慰安所帳場人の日記を読んで

第3回 2014年12月11日(木) 18時30分~20時

講演者 : 秀村 研二 氏 (明星大学教授)

講演題目: 変化の中の韓国キリスト教会: 生き残りへの対応をめぐって

- 第4回 2015年1月22日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 山内 文登 氏 (台湾大学副教授)
 講演題目 : 近代東アジアの音声編制と文書権力 ―植民地朝鮮・台湾のレコード検閲
- 第5回 2015年2月19日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 黄 善燁 氏 (ソウル大学校副教授・東京大学特任准教授)
 講演題目 : 郷歌研究の留意点

2015年度

- 第1回 2015年10月29日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 水野 直樹 氏 (京都大学教授)
 講演題目 : 植民地朝鮮における治安維持法
- 第2回 2016年3月3日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 吉澤 文寿 氏 (新潟国際情報大学教授)
 講演題目 : 日韓国交正常化50年と「植民地責任」問題

(3) ところ公開講座

東京大学文学部で附属北海文化研究常呂実習施設の所在する北海道北見市(旧・常呂町)において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では19回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては18回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心がけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。(講師所属は講座開催時のもの)

◆第18回 東京大学文学部公開講座

〈常呂高校特別講座〉

2014年10月10日(金) 13:30 - 14:40 北海道常呂高校(共催)

「ことばの調査：見えないものを求めて」

林 徹(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

〈常呂公開講座〉

2014年10月10日(金) 18:30 - 21:00 常呂町公民館

「古代ギリシアの動物犠牲」

葛西 康德(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

「絵巻の表現技巧」

高岸 輝(東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授)

◆第19回 東京大学文学部公開講座

〈常呂高校特別講座〉

2015年10月9日(金) 13:30 - 14:40 北海道常呂高校(共催)

「若者にとっての高齢社会 ～未来をどう描くのか～」

白波瀬 佐和子(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

〈北見公開講座〉

2015年10月9日(金) 18:30 - 21:00 北見市民会館小ホール

「私達の漢字と秦の文字統一」

大西 克也(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

「『忠臣蔵』と切腹」

古井戸 秀夫(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

(4) 東大文学部 集英社公開講座

東京大学文学部と(株)集英社との共催による公開講座「ことばを読む ひとを知る」は、一般読書人を対象に、本学部教員(あるいは名誉教授)と、(株)集英社の招聘した作家等とを組み合わせ、12回(各講演者1回ずつ)の講演を一講座として括ったものである。そのねらいは、人文社会学の長年における研究成果と、日本の第一線で活躍する作家等との交流を促し、またこれを一般に開くことにより、学問と創作の現場、そして一般読書人にかつてない刺激をあたえることにある。

本講座は(株)集英社による本学部への寄附により運営され、2013年度～2014年度の2ヶ年開催した。講演は原則として隔週土曜日の14:00～15:40、法文2号館一番大教室において開催し、本学教員がコーディネーターとして集英社の担当者とともに運営にあたり、2014年度は渡部泰明教授と野崎敏教授がコーディネーターを務めた。

2014年度は、高野秀行氏(ノンフィクション作家)、内澤句子氏(イラストルポライター)、中島岳志(北海道大学准教授)、等を講師として招き、以下の日程で実施した。受講者は公募抽選制を採り、150人の定員に対して1,000人を超える応募があった。また実際に行われた講演でも、各回100名程度の受講者が出席し、熱気に包まれた講義が展開された。第12回の最終講座では、全12回中8回以上出席した受講者に「優良受講者」として修了証を授与した。

- | | | |
|------|-----------|---------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 6月7日(土) | 柴田元幸(元本学教授)「今日のアメリカ文学について」 |
| 第2回 | 6月21日(土) | 中島岳志(北海道大学准教授)「3.11後のことば—死者と縁」 |
| 第3回 | 7月12日(土) | 高野秀行(ノンフィクション作家)、内澤句子(イラストルポライター)
「ノンフィクションと外国語」 |
| 第4回 | 7月26日(土) | 熊野純彦(本学教授)「時間と永遠とのあいだで—有限な時を生きること—」 |
| 第5回 | 9月13日(土) | 蓑輪顕量(本学教授)「日本語に入った仏教用語を探る」 |
| 第6回 | 9月27日(土) | 桜井万里子(本学名誉教授)「古代ギリシア人の宗教とは」 |
| 第7回 | 10月11日(土) | 吉田伸之(本学名誉教授)「江戸の周縁」 |
| 第8回 | 10月25日(土) | 渡辺裕(本学教授)「音楽は音の芸術?—音楽を取り巻くことば—」 |
| 第9回 | 11月15日(土) | 藤井省三(本学教授)「魯迅と莫言、現代中国帰郷文学の系譜的研究
—トルストイ『アンナ・カレーニナ』を補助線として—」 |
| 第10回 | 11月29日(土) | 秋山稔(本学教授)「デューラーの悩み—ドイツ人にとっての美とは何か—」 |
| 第11回 | 12月6日(土) | 浦一章(本学教授)「恋愛における最大の苦しみ—ダンテと宮廷風恋愛の伝説—」 |
| 第12回 | 12月20日(土) | 藤原克己(本学教授)「源氏物語の深さと美しさ」 |

(5) 文学部公開講座

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部では、これまで北海道北見市で行ってきた「ところ公開講座」を、より多くの方に参加いただけるよう2011年度から本郷キャンパスにおいても「文学部公開講座」として開催することとした。これは、大学院人文社会系研究科・文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としている。

◆第5回東京大学文学部公開講座 2014年6月14日(土) 14時～15時30分

「こと・こころ・ことば——「視点」をめぐる日中比較表現論」

講師：木村 英樹(中国語中国文学)

参加者数：約150名

◆第6回東京大学文学部公開講座 2015年6月27日(土) 14時～15時30分

「古代ギリシア教に改宗することはできるか?」

講師：葛西 康德(西洋古典学)

参加者数：約220名